

鳥取県産バツタ・ コオロギ・キリギリス図鑑

鳥取県立博物館
佐藤隆士

はしがき

鳥取県は、日本で最も人口が少ない県である。このため国内でも比較的豊かな自然が残された地域であるが、その中には一体どのような昆虫が生息しているのであろうか？

しかし、残念なことに、県内には「生物関係者」が少ないために調査が進んでおらず、チョウやトンボなどを除いては、まとまった報告がほとんどなかったのが現状であった。

このため、著者らは2006年よりまず手始めに県下の直翅系昆虫相の解明に着手し、不完全ながらもそのリストを発表した（佐藤ら、2007）。

今回、それに伴い 2007年現在までの「県内産の」「県内に残された標本」による「鳥取県産バッタ・コオロギ・キリギリス図鑑」を作成し、それぞれの写真や分布状況、県下での標本の有無について web上で情報公開することにより、県内外の有志や自然関係者の基礎資料としてご利用いただこうと考えた。

今後は、少しずつ情報を蓄積して調査精度を高めるとともに、他の分類群についても情報公開できるよう、鋭意調査を進めるつもりである。

当図鑑が、少しでも地域の自然史研究の推進や地域の方の身の回りの自然への興味や関心へと結びつけば、著者としては望外の喜びである。

2007. 7. 20

佐藤隆士・田村昭夫・長谷川寿一・國本洸紀・川上靖(2007) 鳥取県の直翅系昆虫. 鳥取県立博物館研究報告, 44: 9-36.

目次

表紙.....	1
はしがき と 目次...	2
本図鑑の見方.....	3
本編.....	4-114

本編内訳

コログス科 (2種)	4-5
カマドウマ科 (3種)	6-8
キリギリス科 (30種).....	9-38
コオロギ科 (9種).....	39-47
マツムシ科 (7種)	48-54
ヒバリモドキ科 (10種)	55-64
カネタタキ科 (1種)	65
アリツカコオロギ科 (1種)	66
ケラ科 (1種)	67
ノミバッタ科 (1種)	68
ヒシバッタ科 (4種).....	69-72
オンブバッタ科 (1種).....	73
バッタ科 (20種).....	74-93
Wanted! 鳥取産標本種 (20種) ..	94-114

種名
学名
科名

解説

タツクン *Uno takumii* (ヒト科)



写真

岩美町牧谷 2007.4.15 (撮影: 永田理雄)

分布



確認地点

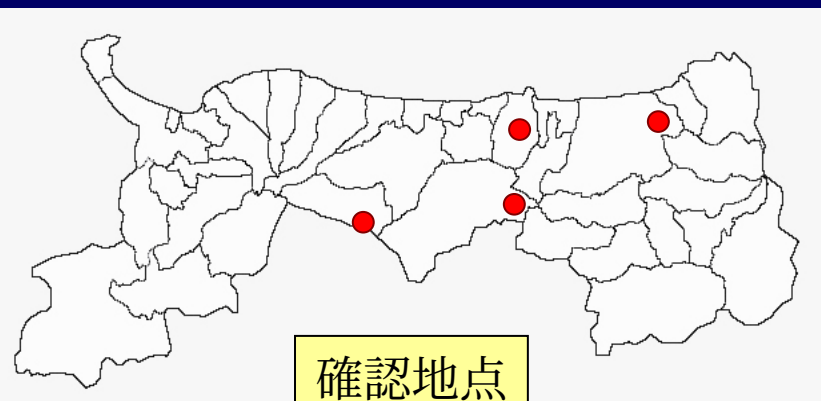
- これまでの知見
- 体長120-130cm.
 - 動きは俊敏. 泳ぎもうまい. 捕まると「ギャーッ」や「ワッ」などと聞こえる大きな奇声を発する.
 - 1年中, 海岸部と山中で見られる. 県内では特に岩美町牧谷周辺で昼間に観察されるが, 夜間の観察例は少ない. 営巣場所は別の箇所にある可能性が示唆されている.
 - しばしば天敵に捕獲されているのが観察されるが, いつも愛嬌によって切り抜ける. 逃げるとき, 悪態をつく.

コロギス (コロギス科)

Nippancistroger testaceus (Matsumura et Shiraki, 1908)



鳥取市東町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 成虫が有翅のコロギス類. 県下での生息状況の詳細については不明.

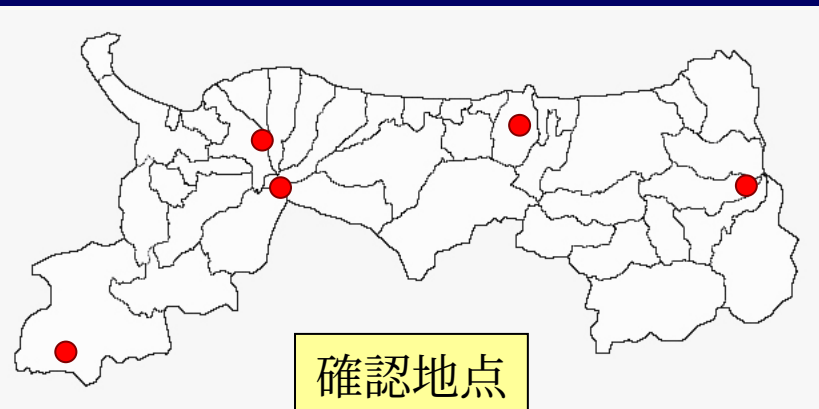
幼虫越冬し, 樹の葉を綴って巣を作る. 成虫は自由生活者で捕食性. 灯火によく飛来する.

ハネナシコロギス (コロギス科)

Nippancistroger testaceus (Matsumura et Shiraki, 1908)



八頭町滝山産 幼虫
背面(左), 側面(右)



確認地点

これまでの知見

■ 成虫が翅を持たないコロギス類.

県下には普通で個体数も多い.

幼虫で越冬し, 成虫は樹の葉を綴って巣を作る.

越冬時, 幼虫は倒木の下などに見られる.

カマドウマ (カマドウマ科)

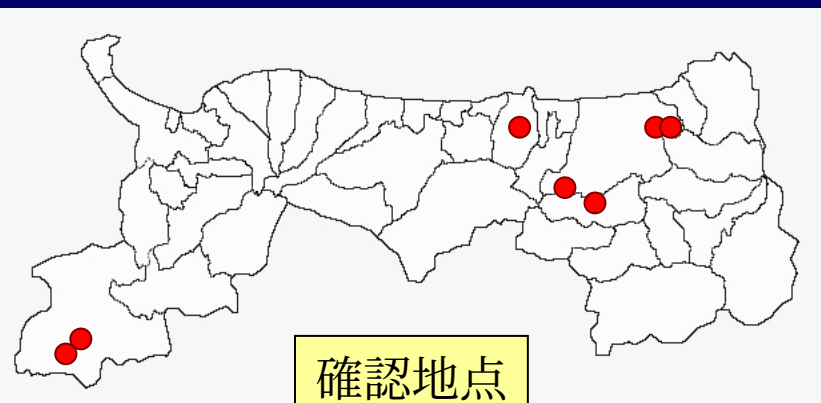
Atachynes apicalis apicalis (Brunner von et Wattenwyl, 1988)



鳥取市東町産 ♀成虫

これまでの知見

- 丸い体と赤っぽい体が特徴のカマドウマ類.
県下には普通で個体数も多い.
「ベンジョコオロギ」の異名を持つ.



確認地点

クラブミウマ (カマドウマ科)

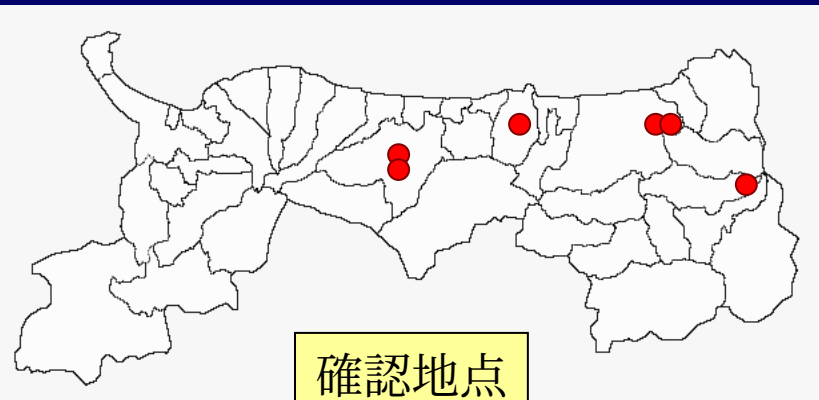
Dietrammena asynamora (Adelung, 1902)



鳥取市東産 ♀成虫

これまでの知見

- まだらな足を持つカマドウマ類.
県下には普通で個体数も多い.



確認地点

ハヤシウマ (カマドウマ科)

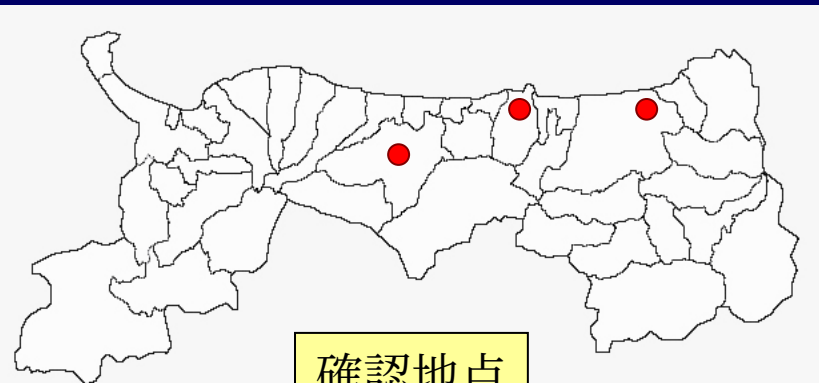
Dietrammena stood Sugimoto et Ichikawa, 2003



鳥取市覚寺産 ♂成虫

これまでの知見

- 明赤褐色の大型カマドウマ.
県下での生息状況については不明.



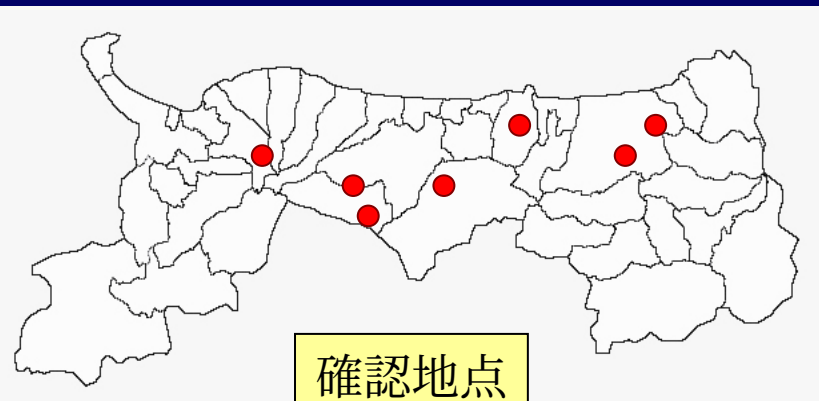
確認地点

ヤブキリ (キリギリス科)

Tettigonia orientalis Uvarov, 1923



♀成虫(上)
♀交尾器(左下)



これまでの知見

■ 怖い顔をした樹上性の大型の捕食性キリギリス類。

頑強なトゲを持つ前脚を持ち、咬まれると痛い。

ヤブキリ類は鳴き声が異なるいくつかの種類が混ざった複合種 (species complex) であり、その分類体系については今も整理途上にある。

小林 (1974) は、県下には異なる鳴き声をもつ4タイプが存在することを示唆しており、その先見の明が光る。

本種は、盛夏以降に出現し、灌木上などでジキジキジキジキジキと連続的な声で鳴く。

ヤマヤブキリ (キリギリス科)

Tettigonia yama Furukawa, 1938



♀成虫(上)
♀交尾器(左上)



確認地点

これまでの知見

■ 樹上性の大型の捕食性キリギリス類.

近縁種のヤブキリと同様、盛夏以降に出現する.

灌木上などでジキジキジキジキ, ジキジキジキジキといくつかの分節をまとめて断続的に鳴く.

ヤブキリと混生する鳥取砂丘周辺では、本種の方がより住宅地に近い開けた環境で鳴いている.

県下での分布の詳細は不明.

キリギリス類 (キリギリス科)

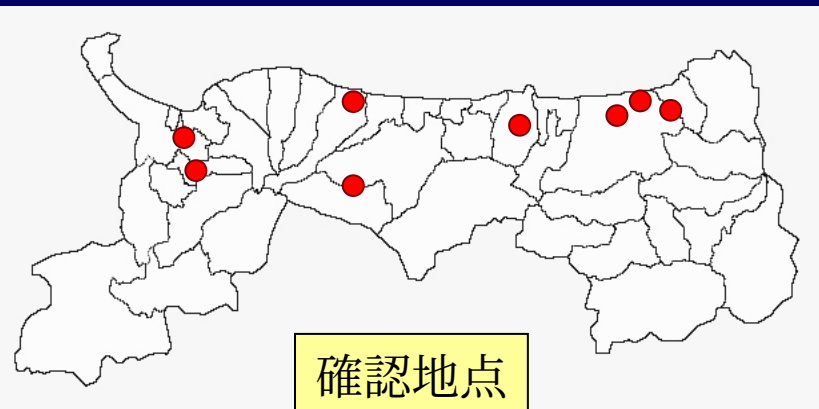
Gampsocleis sp



東伯町浦安産 ♀成虫

これまでの知見

- 大型のキリギリス類の代表種. 草地に住み, ギース, チョンと鳴く.
近年, キリギリス類は, ニシキリギリス *G. buergeri* とヒガシキリギリス *G. micado* に分けられ(日本直翅類学会, 2007), 県下に生息する種類については, 今後の検討が必要.



確認地点

ヒメギス (キリギリス科)

Eobiana engelhardti subtropica (Bey-Bienko, 1949)

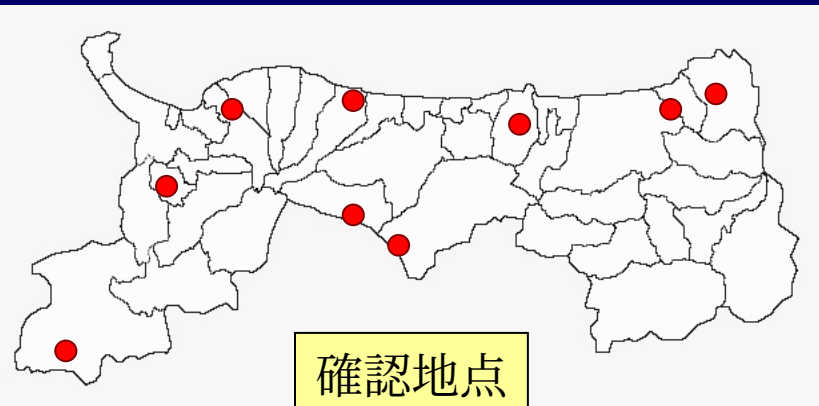


東伯町浦安産 ♂成虫

これまでの知見

■ 黒い体の中型キリギリス類.

県下には普通で個体数も多い. 湿地など湿った環境を好む. ジーッ
ジーッと鳴く.

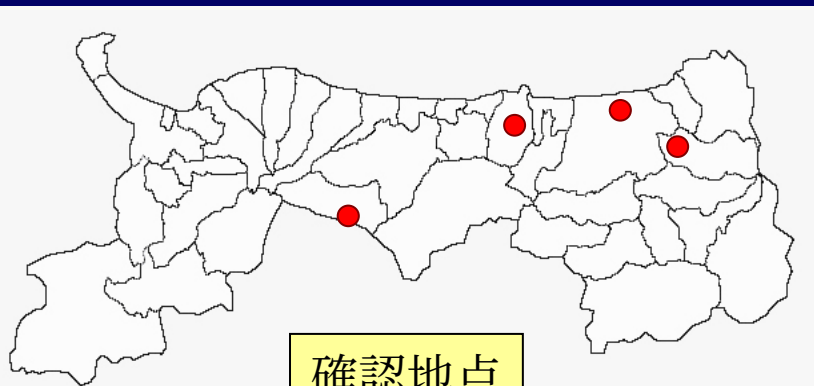


カヤキリ (キリギリス科)

Pseudorhynchus japonicus Shiraki, 1930



鳥取市江津産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 首の太い巨大なクサキリ類.

河川敷などの草丈の高い草地に見られ, 夕方ごろからジーーーーーと強い声で鳴く.

県下には普通で個体数も多いが, 島根, 広島, 兵庫ではRDB種に挙げられている.

クサキリ (キリギリス科)

Homorocoryphus lineosus (Walker, 1869)



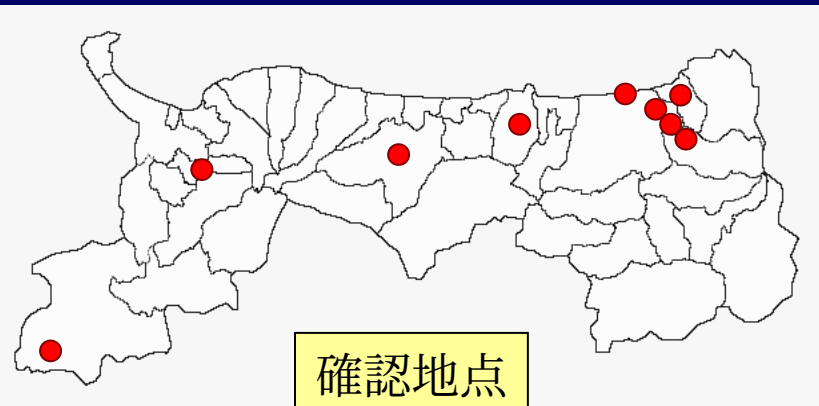
鳥取市浜村産 ♂成虫

これまでの知見

■ クサキリ類の代表種.

成虫は盛夏に出現し, 夜間にジーンと強い声で鳴く.

県下には普通で個体数も多い. イネ科の種子を好む.



ヒメクサキリ (キリギリス科)

Ruspolia dubia (Redtenbacher, 1891)



若桜町春米産 ♀成虫

これまでの知見

- 翅端が尖ったクサキリ類.
クサキリと同様に夜間に
ジーンと強い声で鳴く.

県下ではこれまで、やや
高標高地からのみ得られて
いるが分布の詳細について
は不明.

北の地方ではクサキリよ
りも優占する.



確認地点

クビキリギス (キリギリス科)

Euconocephalus varius (Walker, 1969)

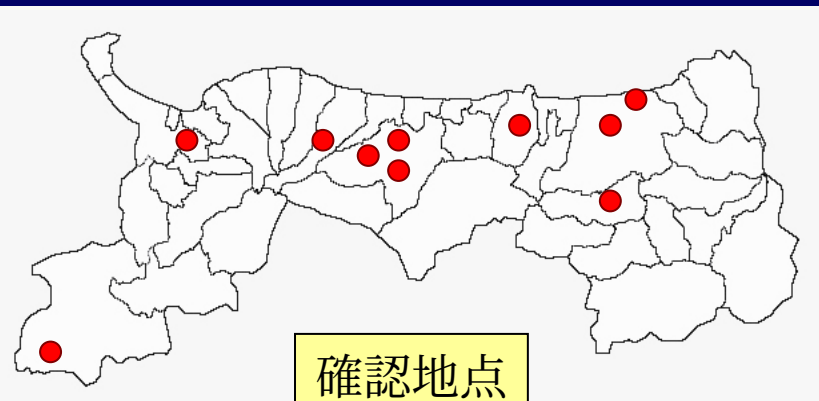


米子市福市産 ♀成虫

これまでの知見

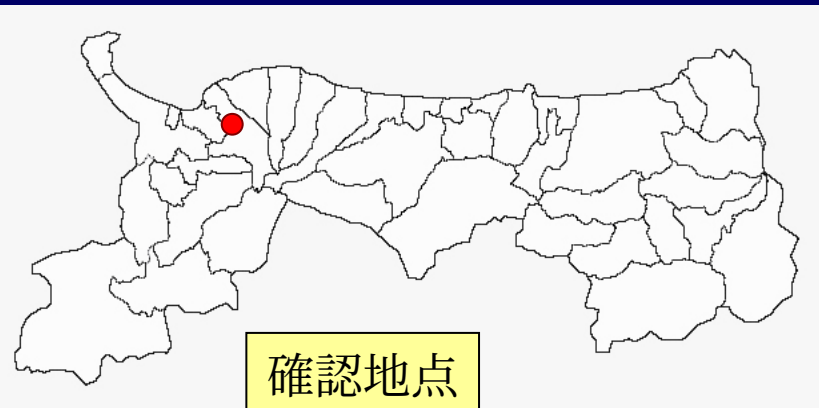
■ 細身で顔の長いクサキリ類.

成虫で越冬し, 春に街灯の下などで電気がもれたような声でジーンと強く鳴く. 県下には普通で個体数も多い. イネ科の種子を好むが, 口元が赤いため「チスイバッタ」という異名あり.



シブイロカヤキリ (キリギリス科)

Xestrophrys javanicus Redtenbacher, 1891



これまでの知見

■ ずんぐりした体型の褐色のクサキリ類.

成虫で越冬し、春に電気がもれたような声でジャーーッと連続的な声で強く鳴く。産地では普通で個体数も多い。イネ科の種子を好むが、口元が、黒く泥棒顔をしている。

ホシササキリ (キリギリス科)

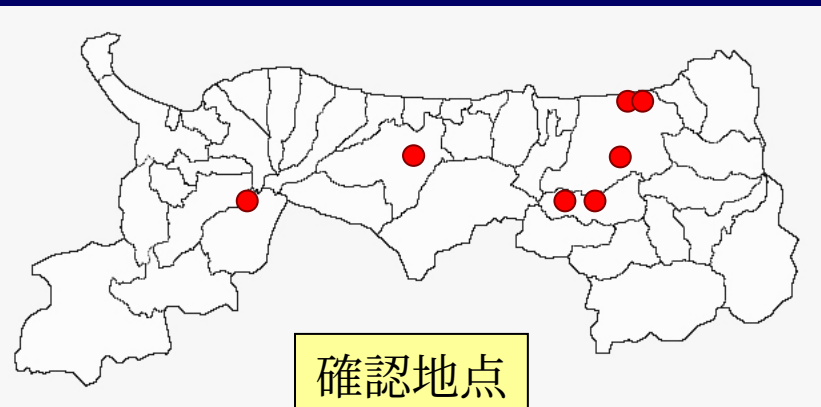
Conocephalus macualtus (le Guillou, 1841)



鳥取市浜村産 ♂成虫

これまでの知見

- 翅に点々模様を持つ細身のササキリ類。
シリシリシリシリと鳴く。乾いた草地などで見られる。
県下には普通で個体数も多い。♀の産卵管は他種と比べて短め。



確認地点

ウスイロササキリ (キリギリス科)

Conocephalus chinensis (Redtenbacher, 1891)



鳥取市浜坂産 ♂成虫(上)
♀成虫(下)

これまでの知見

- 華奢なササキリ類。
丈の低い草の上でシリシリ鳴く。県下には普通で、個体数も多い。
県内では他のササキリ類よりも遅い時期に成虫が出現する。



確認地点

オナガササキリ (キリギリス科)

Conocephalus gladiatus (Redtenbacher, 1891)



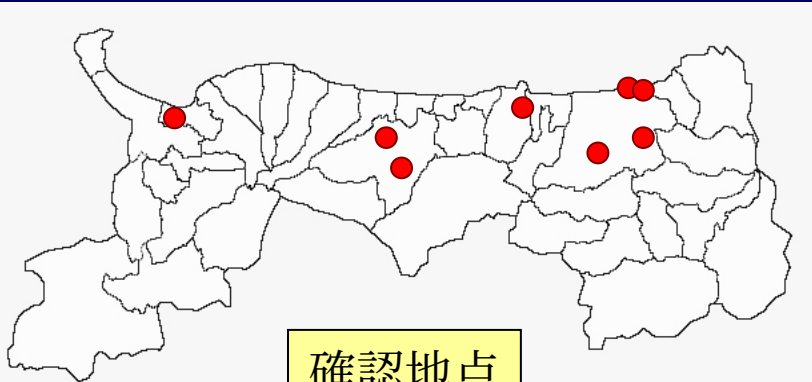
鳥取市浜坂産 ♂成虫(上)
♀成虫(下)



これまでの知見

■ 丈の高い草地に見られる頭でっかちのササキリ類.

ジキジキジキジキと鳴く. 県下には普通で個体数も多く, 多くの草地で優占する. ♀の産卵管が長い. 目が怖い.



確認地点

ササキリ (キリギリス科)

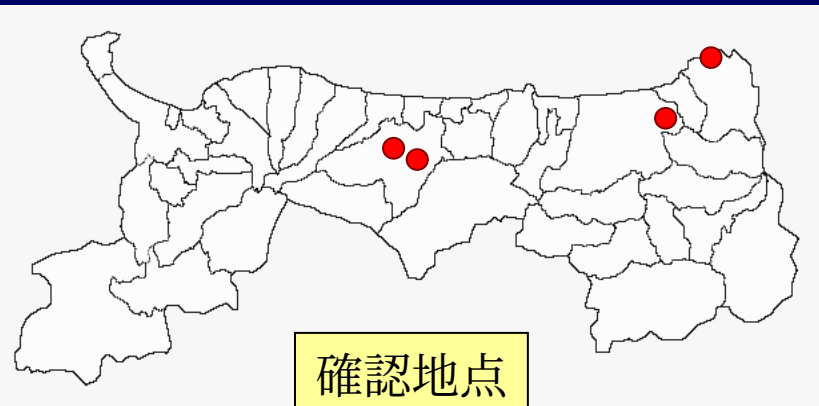
Conocephalus melaenus (de Haan, 1842)

これまでの知見

- ササキリ類の代表種。
目玉が大きく体色は黒色。その名の通り、林内から林縁にかけてのササ上に見られ、ジキジキジキジキと連続的な声で鳴く。
県下には普通で個体数も多い。



岩美町牧谷産 ♂成虫



確認地点

フタツトゲササキリ (キリギリス科)

Conocephalus bumbusanus Ingrisch, 1990



これまでの知見

- 小さなササキリ類.
他県では、樹幹や竹林
などから採集されている
が、県下での分布状況に
ついては不明.

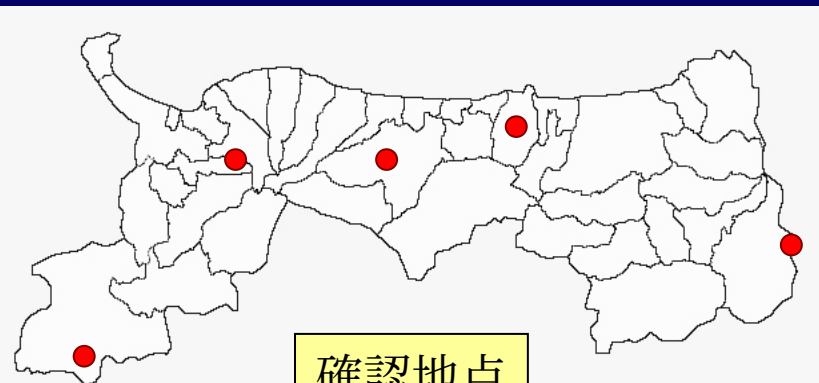


ハヤシノウマオイ (キリギリス科)

Hexacentrus hareyamai Furukawa, 1941



鳥取市東町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

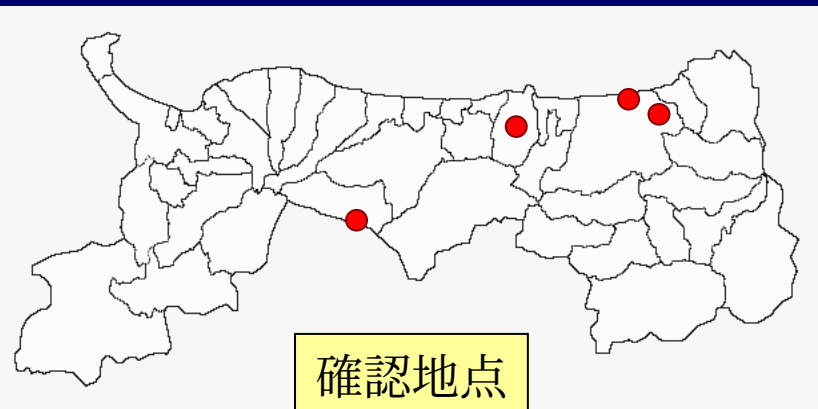
- 灌木などを好む代表的な捕食性キリギリス類。
スーチョスーチョと高音で鳴く。県下には普通で個体数も多い。
本州に生息するウマオイ類にはもう1種、鳴き声のピッチが早いハタケノウマオイ *H. japonicus* が知られるが、県下では鳴き声は確認されているものの採集されていない。

ササキリモドキ (キリギリス科)

Kuzicus suzukii (Matsumura et Shiraki, 1908)



鳥取市浜坂産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 小さく華奢な有翅のササキリモドキ類.

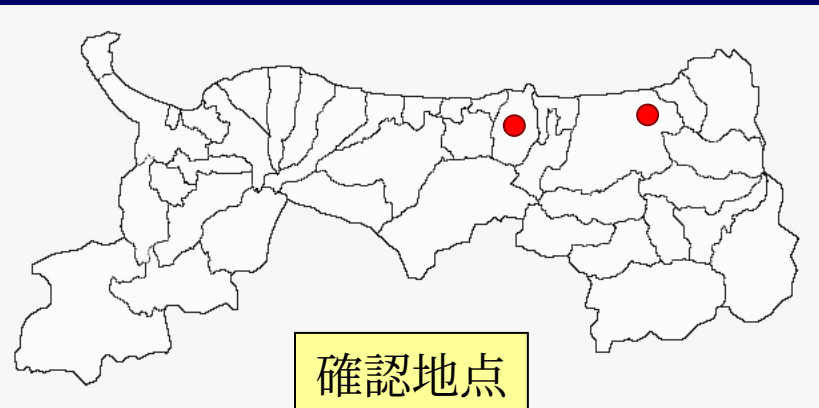
よく探すと, マント群落から林縁, 砂丘草原までどこにでも見られる.

セスジササキリモドキ (キリギリス科)

Xiphidiopsis subpunctata (Motschoulsky, 1866)



鳥取市東町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 背が黒く、翅の長いササキリモドキ類.

県下からの記録は少なく、分布の詳細については不明.

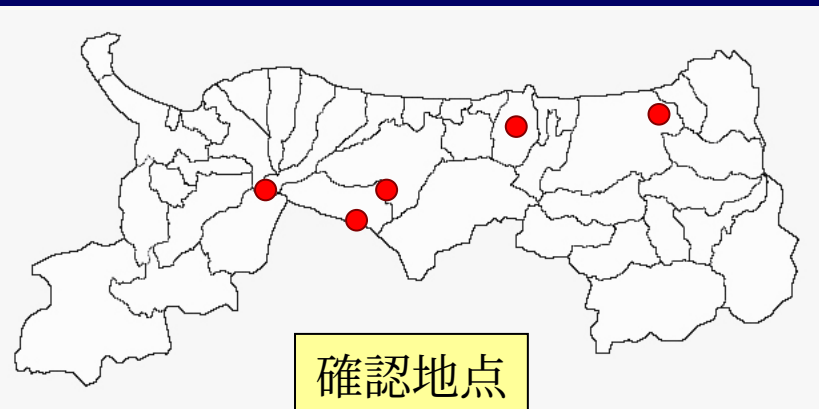
飛翔が上手く、灯火によく飛来する.

ヒメツユムシ (キリギリス科)

Leptoteraura albicornis (Motschoulsky, 1866)



鳥取市覚寺産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 菱形っぽい体と鮮やかな濃緑色が特徴的な小型のササキリモドキ類.

県下では比較的普通に見られる.

ムサシセモンササキリモドキ (キリギリス科)

Nipponomeconema musashiense Yamasaki, 1983

これまでの知見

- 無翅のササキリモドキ類. 県下での分布の詳細については不明.



ホンシュウフタエササキリモドキ (キリギリス科)

Tettigoniopsis kurosawai Yamasaki, 1986



江府町鏡ヶ成産 ♂成虫(左)
♂交尾器(上)

これまでの知見

- 短翅のササキリモドキ類. 県下での生息状況については不明.



確認地点

ダイセンササキリモドキ (キリギリス科)

Tettigoniopsis daisenensis Yamasaki, 1985



大山町二ノ沢 ♂成虫(左)
♂交尾器(上)



確認地点

これまでの知見

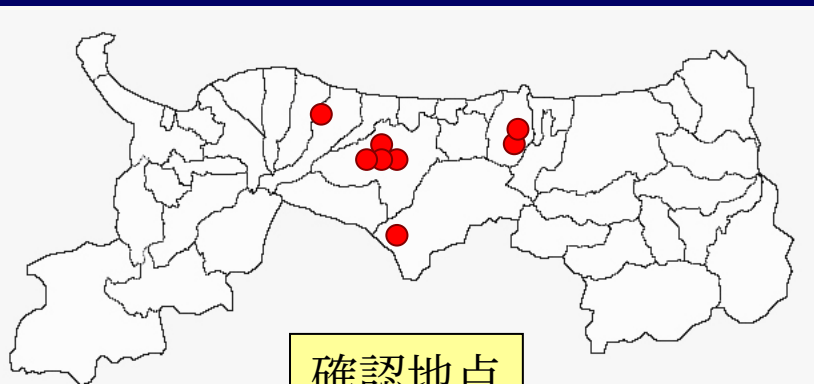
- 短翅のササキリモドキ類. 大山山塊の固有種.
近年, 岡山県からも記録された.

クツワムシ (キリギリス科)

Mecopoda nipponensis (de Haan, 1842)



鳥取市青谷町産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 唱歌にも歌われる巨大なキリギリス類.

林床の灌木を好み機械が動いているような大声で「ガシャガシャガシャガシャ、グルルルルルル....」と鳴く.

県下での分布は局所的.

近年, 減少が著しく, 近県では島根県(NT), 岡山県(準危急種), 広島県(NT), 兵庫県(Cランク)のRDB種に指定されている.

ツユムシ (キリギリス科)

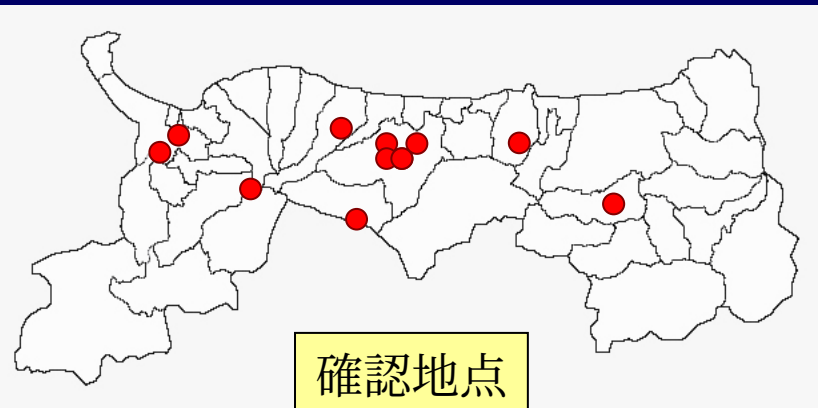
Phaneroptera falcata (Poda, 1761)



江府町鏡ヶ成産 ♂成虫

これまでの知見

- 華奢な体が特徴的なツユムシ類の代表種。
県下には普通で個体数も多い。草地を好み、チッチッチッ..とか細く鳴く。
よく飛ぶ。



アシグロツユムシ (キリギリス科)

Phaneroptera nigroantennata Brunner von Wattenwyl, 1878



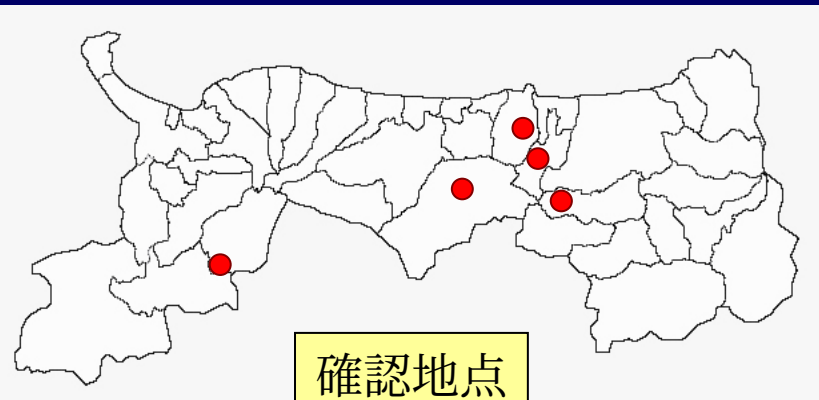
鳥取市鷺峰産 ♂成虫

これまでの知見

■ 細い体と濃緑色の皮質状の翅が特徴的なツユムシ類. 脚は濃い赤褐色.

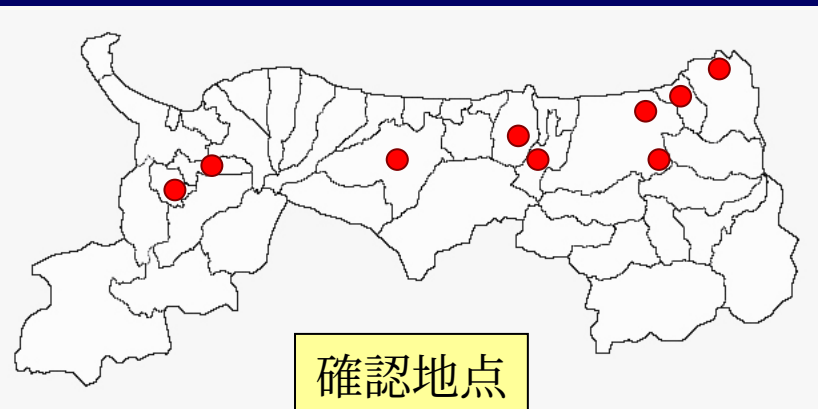
県下では丘陵地から山地の林縁に見られ, 産地では個体数も多い.

幼虫は, 濃緑色, 赤色, 白色のまだら模様.



セスジツユムシ (キリギリス科)

Ducetia japonica (Thunberg, 1815)



これまでの知見

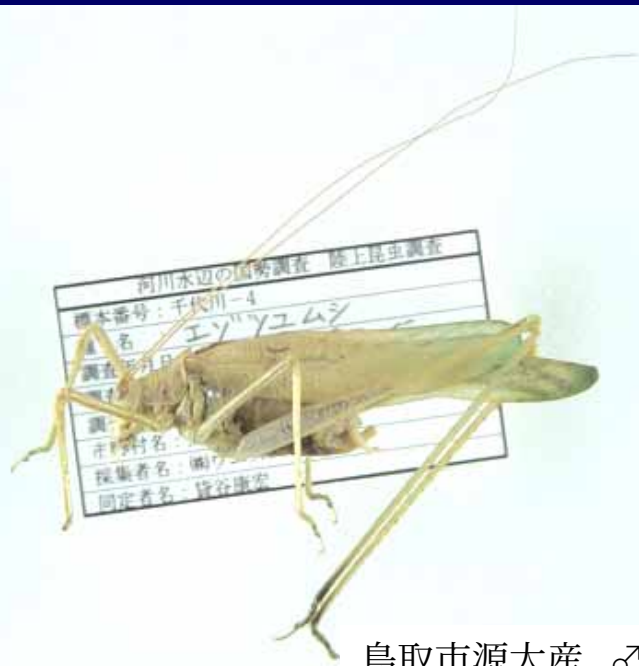
■ 太めの体と背面中央を通る茶色い一本筋が特徴的なツユムシ類.

チッチッチッチッ
チーッ、チッチッ
チーッ..と、繰り返しながら鳴き、最後はテンポ早く鳴き終わる.

林縁から草地にかけて普通で個体数も多い.

エゾツユムシ (キリギリス科)

Kawayamaea sapporensis Matsumura et Shiraki, 1908



鳥取市源太産 ♂成虫

これまでの知見

■ 草地に見られる中型のツユムシ類.

♀は後翅が短く, 丸々している.

県下での詳細な生息状況については不明.

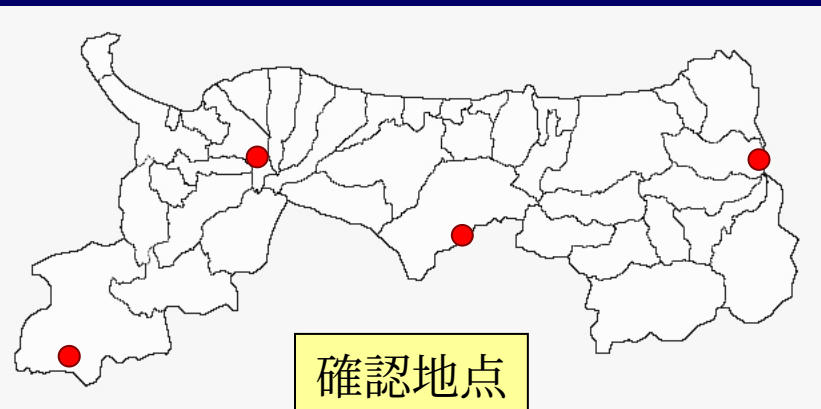


ホソクビツユムシ (キリギリス科)

Shirakisotima japonica (Matsumura et Shiraki, 1908)



国府町河合谷産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

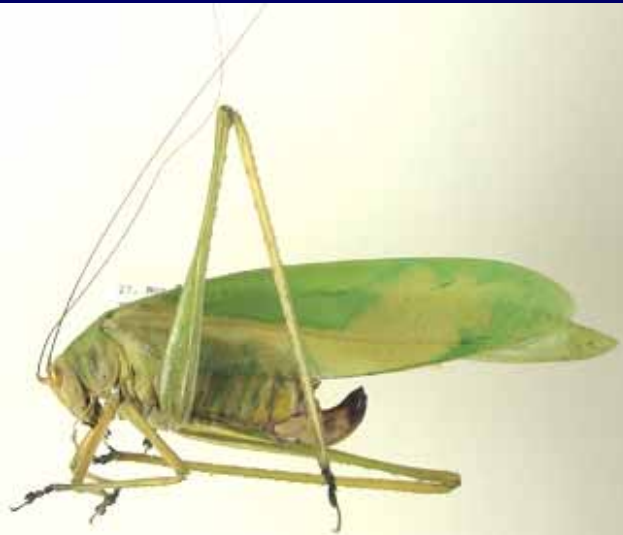
■ 細い体と小さな頭、長いまだら模様の触角が特徴的な樹上性の大型ツユムシ類.

県下の山地には普通で個体数も多い.

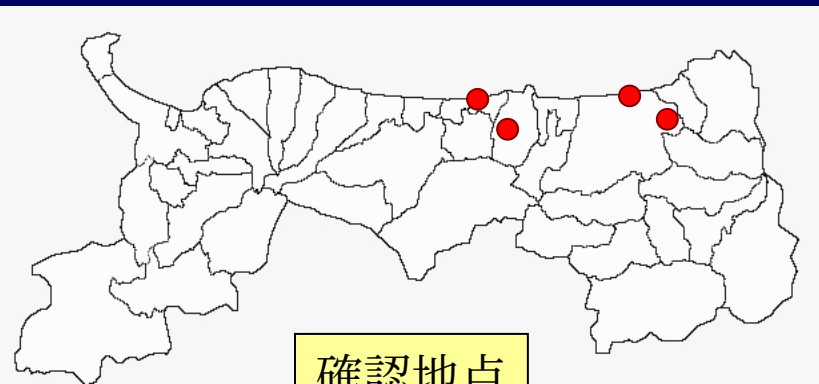
盛夏の昼間に高い木上からツイーツイーチキチッという鳴き声がよく聞かれる. 確認は容易だが採集はなかなか難しい.

サトクダマキモドキ (キリギリス科)

Holochlora japonica Brunner von Wattenwyl, 1878



国府町河合谷産 ♀成虫



これまでの知見

■ ツヤツヤした翅を持つ
大型のツユムシ類.

県内での分布の詳細に
ついては不明.

関東地方の平野部では
本種が優占するが、鳥取
県東部の平野部ではヤマ
クダマキモドキの方が圧
倒的に多い.

灯火によく飛来する.

ヤマクダマキモドキ (キリギリス科)

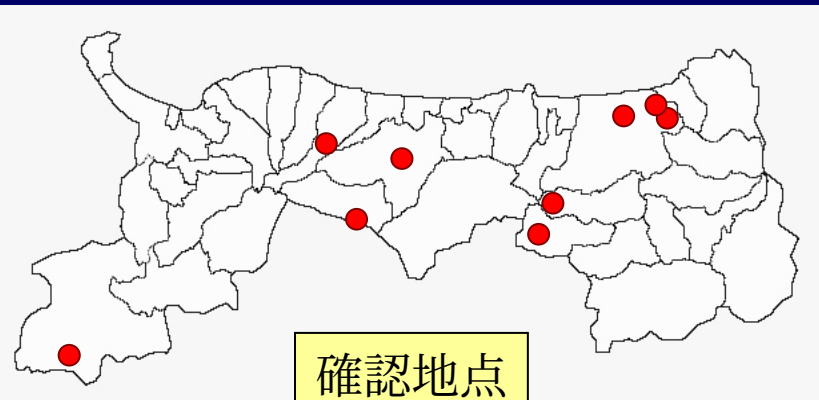
Holochlora longifissa Matsumura et Shiraki, 1908



鳥取市東町産 ♀成虫

これまでの知見

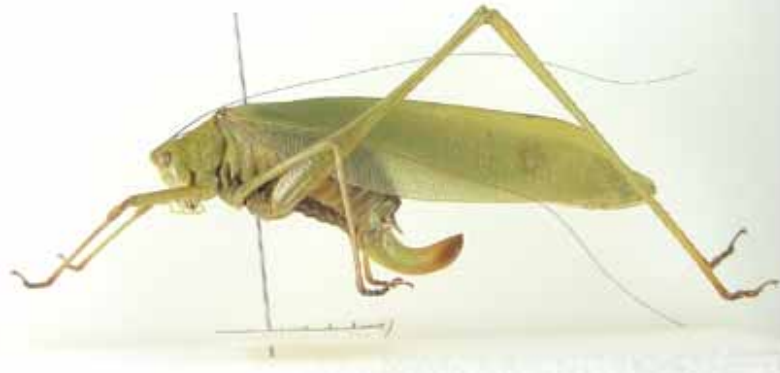
- ツヤのある深緑の翅を持つ大型ツユムシ類。
県下には普通で個体数も多い。県下では近縁種のサトクダマキモドキよりも普遍的。
灯火によく飛来する。



確認地点

ヘリグロツユムシ (キリギリス科)

Psyrana japonica (Shiraki, 1930)

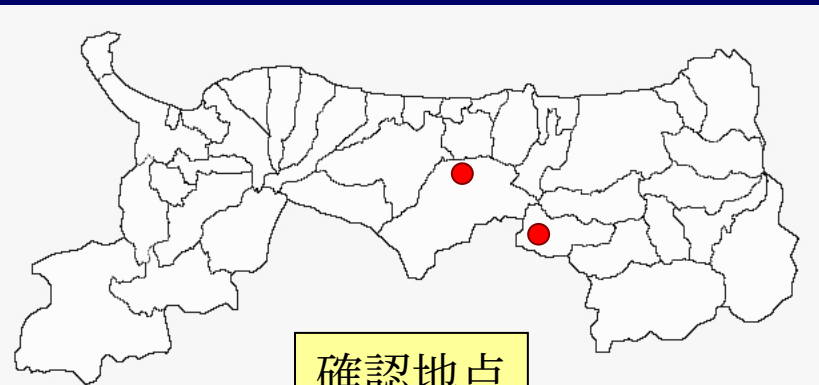


佐治町三王谷産 ♀成虫

これまでの知見

■ ツヤのある翅を持つ大型ツユムシ類. クダマキモドキ類に似るが交尾器形態により判別は容易.

県下では山地から得られているが生息状況の詳細については不明.



確認地点

エンマコオロギ (コオロギ科)

Teleogryllus emma (Ohmachi et Matsuura, 1951)



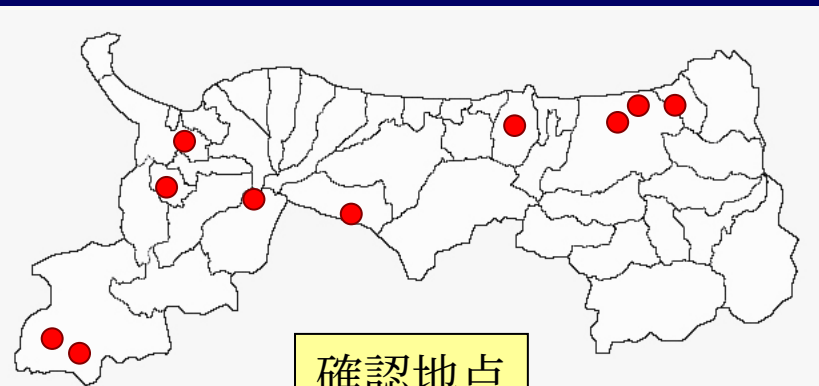
米子市福市産 ♂成虫(左)
江府町鏡ヶ成産 ♀成虫(右)

これまでの知見

■ 草地に棲む大型のコオロギ類. 正面から見ると、とっちゃん坊やのように見える. 幼虫は黒地に白い横線が入り、クロゴキブリの幼虫に似る.

県下には普通で個体数も多く、夜間草地よりコロコロリーと聞きなされる美声が聞かれる.

大山産の個体は平野部のもの比べて著しく小さい上に、黒味が強く変わっている.



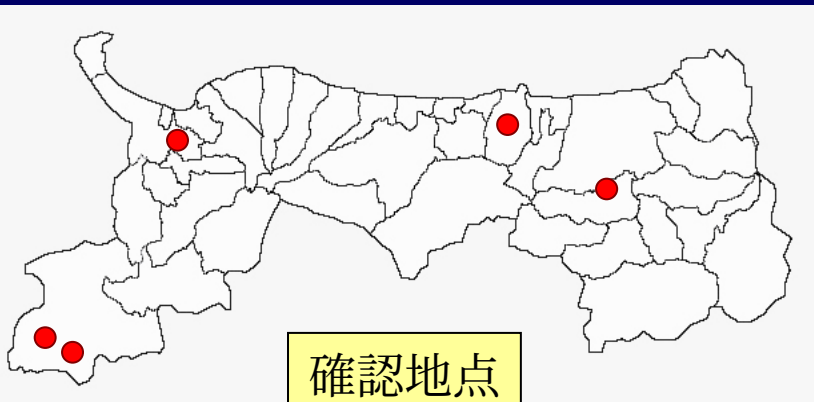
確認地点

クマコオロギ (コオロギ科)

Mitius minor (Shiraki, 1913)



河原町佐貫橋産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

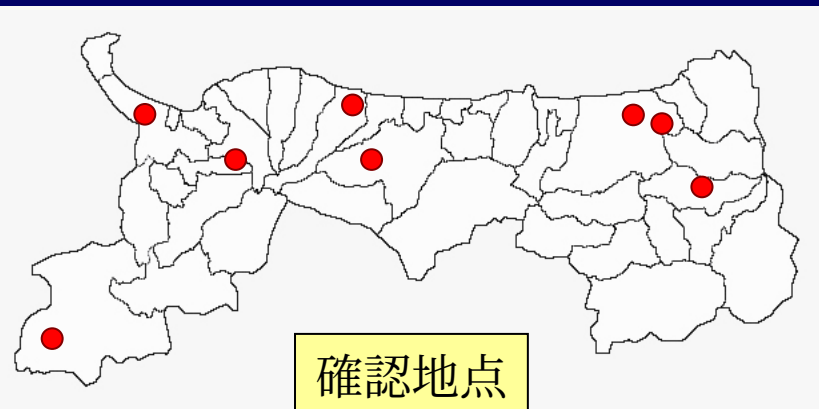
- 河川敷や畦などに穴を掘って暮らす赤い脚が美しい中型のコオロギ類。
県下には普通で個体数も多い。成夏から晩秋にかけて鳴き声が聞かれるが、採集はなかなか難しい。ピットホールに落ちる。

モリオカメコオロギ (コオロギ科)

Loxoblemmus sylvestris Matsuura, 1988



岸本町水無原産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

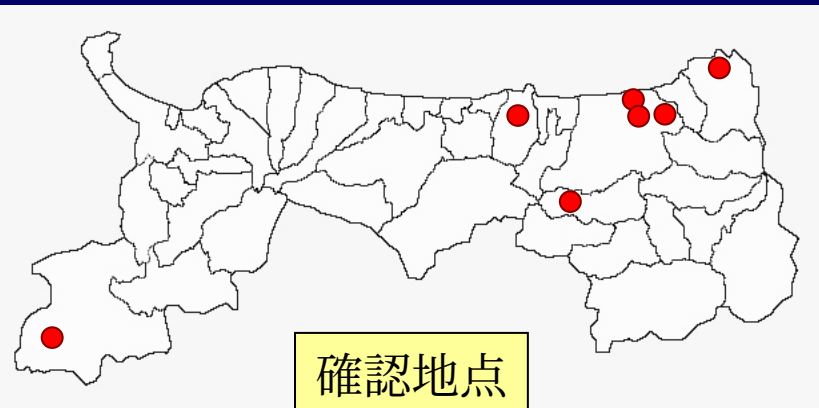
- 林床下に住む翅端のところがたオカメコオロギ類. 県下には普通で個体数も多い. ハラオカメコオロギよりもゆっくりとしたピッチでリッリッリッリッリと断続的に鳴く.

ハラオカメコオロギ (コオロギ科)

Loxoblemmus campestris Matsuura, 1988



鳥取市東町産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 翅端が丸い中型のオカメコオロギ類.

県下には普通で個体数も多い. やや開けた場所によく見られる.

典型的な鳴き方はリッリッリッリッ, リッリッリッリッ・という分節の繰り返し.

タンボオカメコオロギ (コオロギ科)

Loxoblemmus aomoriensis Shiraki, 1930



鳥取市覚寺産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 黒くてつやつやした小型のオカメコオロギ類。リッリッリッリッとややゆっくりしたリズムで連続的に鳴く。

県下での分布の詳細については不明。

なお岩手県盛岡市では本種がもっとも優占しているオカメコオロギだった。

ミツカドコオロギ (コオロギ科)

Loxoblemmus doenitzi Stein, 1881

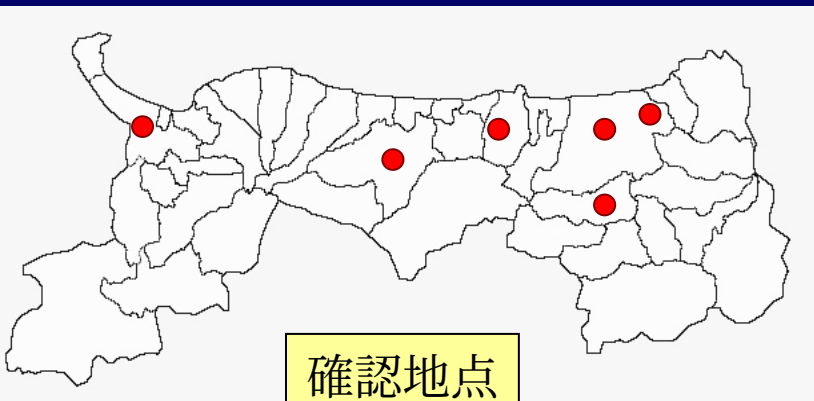


鳥取市東町産 ♂成虫

これまでの知見

雄の三角形の顔の出っ張りが特徴的な中型のコオロギ. オカメコオロギ類の中では比較的体が大きい.

県下の草地に普通で個体数も多い. リッリッリッリッリッと断続的に鋭く鳴く.

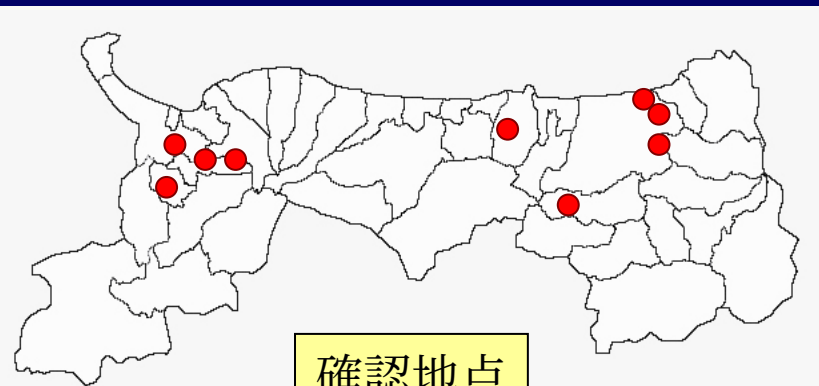


ツツレサセコオロギ (コオロギ科)

Velarifictorus micado (Saussure, 1877)



鳥取市浜坂産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ リーリーリーリーと連続的に鳴く中型のコオロギ類. 林縁から草地などに見られる. 県下には普通で個体数も多い.

♂の大型個体は, 顔が丸くて大きく上唇が長く突き出ている. ♀の産卵管は他種と比較して著しく長い. 8月前後から声が聞かれるが, 発生後期には巣穴にこもり, グリューッグリューツとくぐもった声で鳴く.

タンボコオロギ (コオロギ科)

Modicogryllus siamensis Chopard, 1961



鳥取市中ノ茶屋産 ♂成虫(上)
顔(左上)



確認地点

これまでの知見

■ 眼の間の白い線が目立つ中型のコオロギ. 「イチモンジコオロギ」の別名を持つ.

県下での分布の詳細については不明. 生息地の密度は高い. 5月から6月の夜間にリッリッリッリッ...と、カエルっぽい音声で早いピッチで鳴く. 幼虫越冬. 地域によっては年2回発生するとされるが, 県下での生活史は不明.

クマスズムシ (コオロギ科)

Sclerogryllus punctatus (Brunner von Wattenwyl, 1893)



鳥取市東町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 平たい体と触角の白い紋が目立つ小さなコオロギ.

県下には普通で個体数も多い. 草地の堆積物の下などに見られ, 盛夏以降, ウィーーーーーンと聞こえる連続的な高音の美しい声で鳴く.

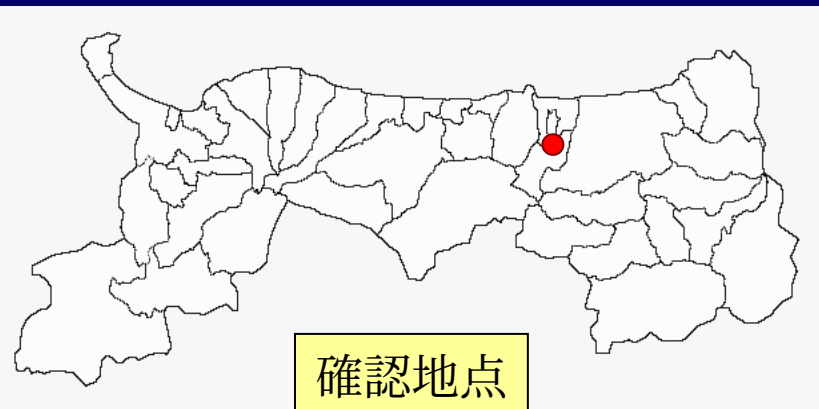
ピョンピョン跳ばず這い回って逃げることが多い.

クチキコオロギ (マツムシ科)

Duolandrevus ivani (Gorochov, 1988)



鹿野町小畑産 幼虫



確認地点

これまでの知見

- 平たい体で頭でっかちの短翅の大型コオロギ類。県下での分布の詳細については不明。

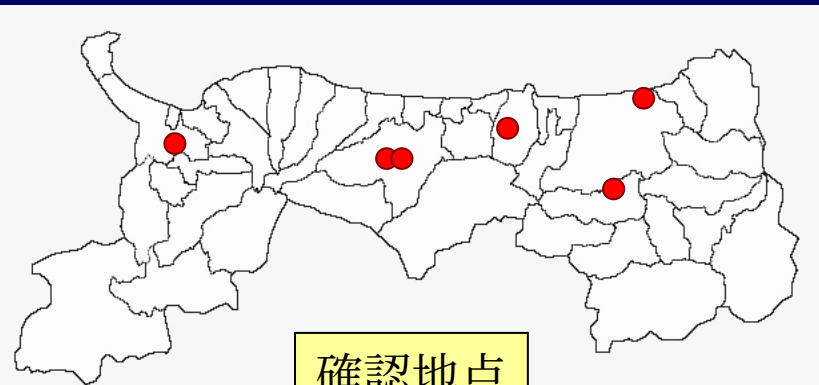
太平洋岸での観察結果からは、本種は主に常緑樹林下の倒木の樹皮下や岩の割れ目などで見られ、グリーッ、グリーッ..と断続的に鳴く。成虫になるまでに何年もかかることが知られ、同一時期に幼虫から成虫まで様々なステージが見られる。

マツムシ (マツムシ科)

Xenogryllus marmoratus (de Haan, 1842)



鳥取市浜坂産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 唱歌にも歌われる褐色の大型のコオロギ類.

県下では海岸線から内陸部の草地まで普遍的でかつ個体数も多い.

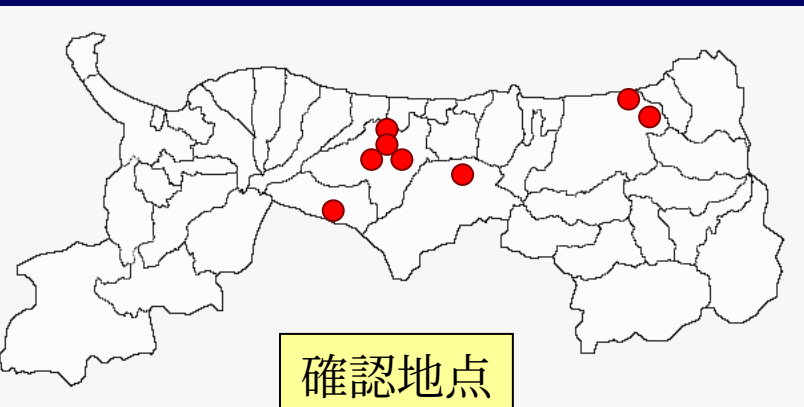
チンチロリンと聞きなされる声は、ティッティリリ、ティッティリリ、と素早く軽快. 県内ではうるさいほどの合唱が聞かれる.

アオマツムシ (マツムシ科)

Calypotrypus hibinonis (Matsumura, 1928)



鳥取市東町産 ♀成虫



これまでの知見

- 中国から来た外来種.
県下には普通で個体数も多い. 灯火にもよく飛来する.

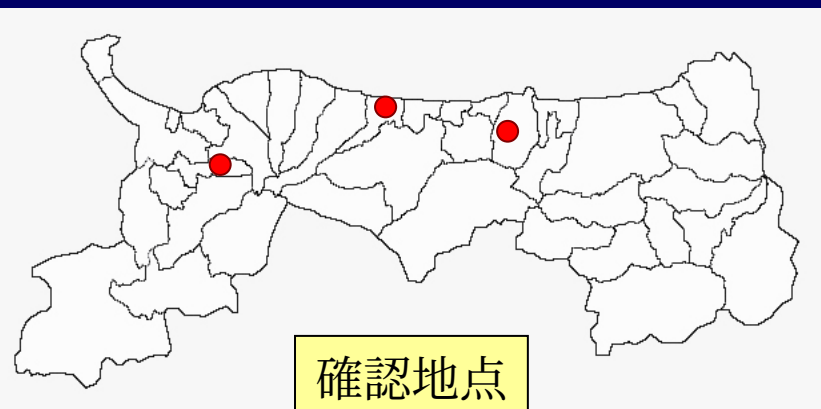
県下では8月から10月下旬まで成虫が見られ, 特に8月-9月にかけての夜間には樹上から非常に大きな声の合唱が聞かれる.

カヤコオロギ (マツムシ科)

Euscyrtus japonicus Shiraki, 1930



岸本町水無原産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

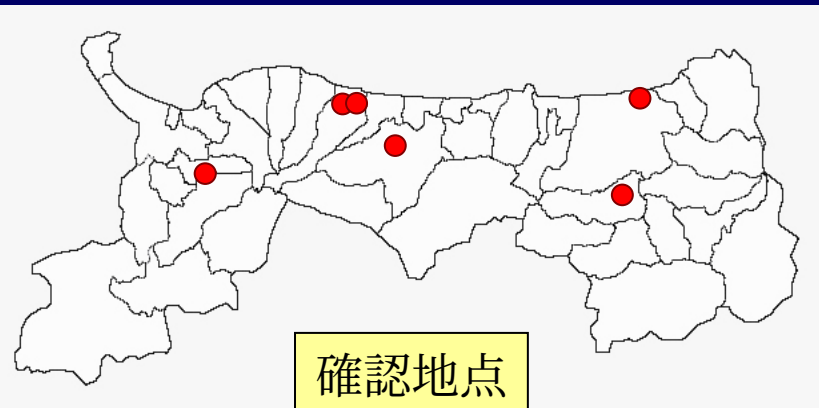
- 細い体と長い触角の鳴かないコオロギ。
適度な攪乱草原を好み、
県下での産地は局所的。
産地での個体数が多い。
近県では島根県(DD)や
兵庫県(Bランク)のRDB種
に指定されている。

スズムシ (マツムシ科)

Homoeogryllus japonicus (de Haan, 1842)



鳥取市浜坂産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ リーン, リーンという美声のため古くから飼育されてきた大型のコオロギ類. 松林の林床下などに多い.

ゴキブリ的な平たい体と白い触角や脚が特徴的.

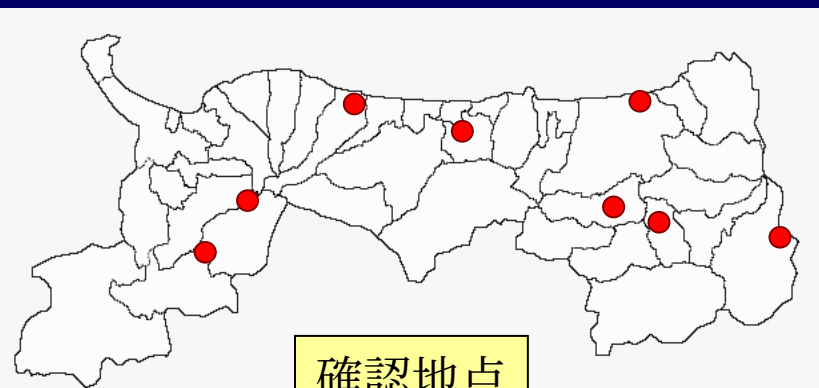
県下には自然個体群がまだまだ顕在で個体数も多いが, 下草間を動き回るため鳴き声はすれども採集はなかなか難しい.

カンタン (マツムシ科)

Homoeogryllus japonicus (de Haan, 1842)



若桜町春米産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ マント群落に多い華奢なコオロギ類.

県下には普通で個体数も多い. ルルルルルと連続的な水の流れるような声で鳴き, 「鳴く虫の王様」と呼ばれる. 枕元に置くと安眠を促されるといふ言い伝えがあり, 「邯鄲 (カンタン) 夢枕」という言葉がある.

しかし、鳴き声はかなり大きい. 腹が黒い.

ヒロバネカンタン (マツムシ科)

Oecanthus euryelytra Ichikawa, 2001



鳥取市浜坂産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 平べったい体が特徴的なコオロギ類.

県下には普通で個体数も多い.

盛夏すぎに海岸沿いや乾いた場所の灌木上などでよく見られる. カンタンと異なり、リユー、リユー、リユー...と断続的に鳴くのが特徴.

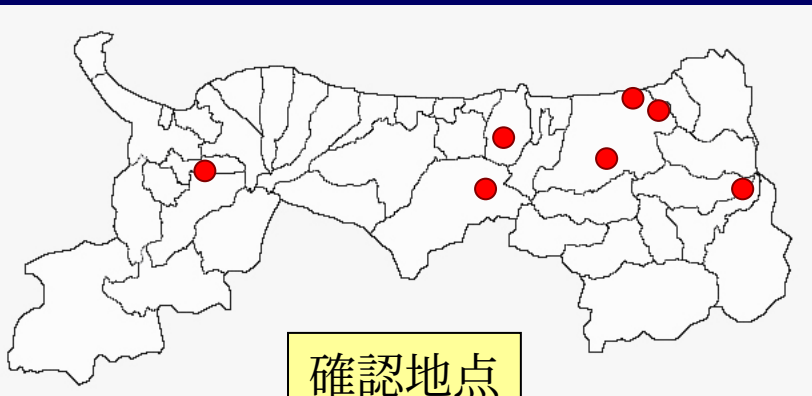
腹は黒くない.

クサヒバリ (ヒバリモドキ科)

Svistella bifasciata (Shiraki, 1911)



鳥取市江崎町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

- マント群落に多い触覚の長いコオロギ類.
県下には普通で個体数も多い. 盛夏から秋にかけての日差しの強くない午前や午後にフィリリリリリリ...と可憐な声で連続的に鳴く.
灌木上に多い.

キアシヒバリモドキ (ヒバリモドキ科)

Trigonidium japonicum Ichikawa, 2001

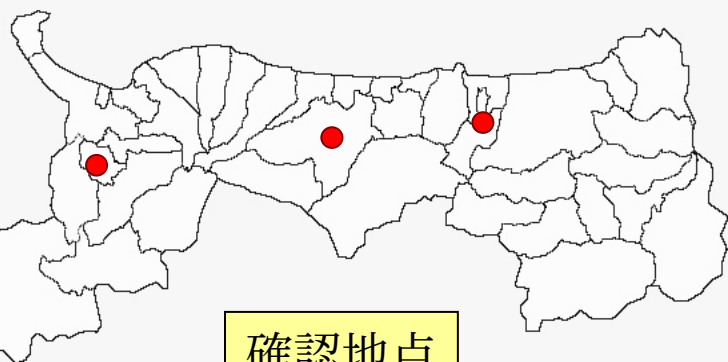


鹿野町矢橋産 ♀成虫

これまでの知見

- 湿った低い草丈の場所に棲む小さな鳴かないコオロギ. ツヤツヤした黒い翅と黄色い足が特徴.

県下での分布の詳細については不明.



確認地点

キンヒバリ (ヒバリモドキ科)

Anaxipha pallidula Sugimoto, 2001



鳥取市湖山池青島産
♂成虫(上)
♀成虫(下)



確認地点

これまでの知見

■ 初夏頃からアシ原などで大合唱が聞かれる小さな金色の美しいヒバリモドキ類.

リッリッリッリッリッリーーッ・リッリッリッリッリーーッと断続音と連続音を繰り返して鳴く.

鳥取市湖山池周辺、樗谿、浜村川などのじめっとした環境でよく鳴き声を聞くが、

詳細な分布状況については不明.

採集はなかなか難しい.

エゾスズ (ヒバリモドキ科)

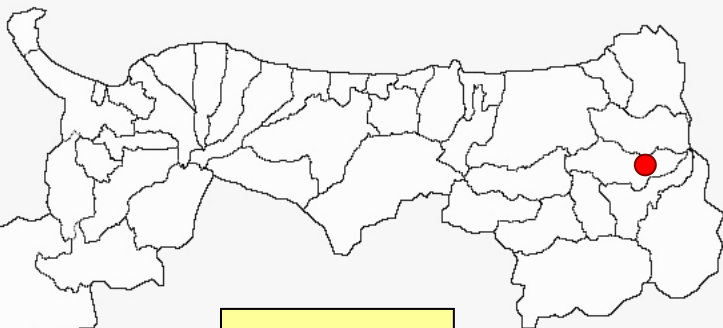
Pteronemobius gorochovi Storozhenko, 2004



八頭町山志谷産 幼虫

これまでの知見

- 湿地に見られる黒くてツヤツヤした大型のチビスズ類.
ジーツ, ジーツ..と断続的に鳴く.
県下での詳細な分布状況については不明. 幼虫で越冬する.



確認地点

ヤチスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius ohmachii (Shiraki, 1930)



江府町鏡ヶ成産 ♂成虫

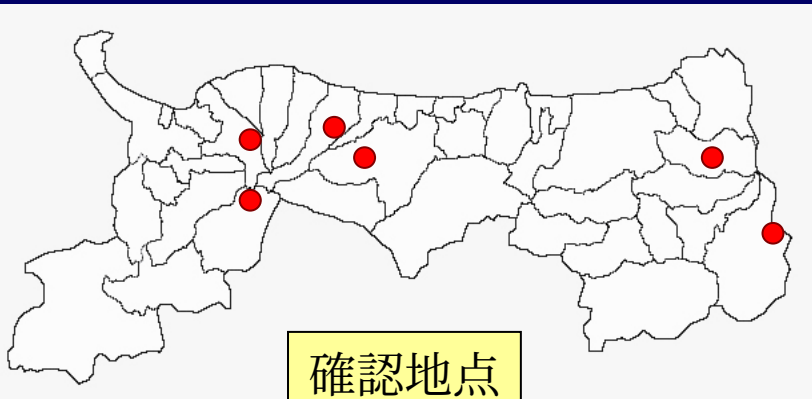
これまでの知見

■ ツヤツヤした黒褐色の大型のチビスズ類.

県下では, 高標高の草地で優占し, 個体数も多い.

盛夏以降, 成虫が見られ, ジーッ, ジーッ..と断続的に鳴く. 卵越冬.

関東平野や東北地方での観察では, 平地の湿地や谷津などにも普通に見られる.



確認地点

ヒメスズ (ヒバリモドキ科)

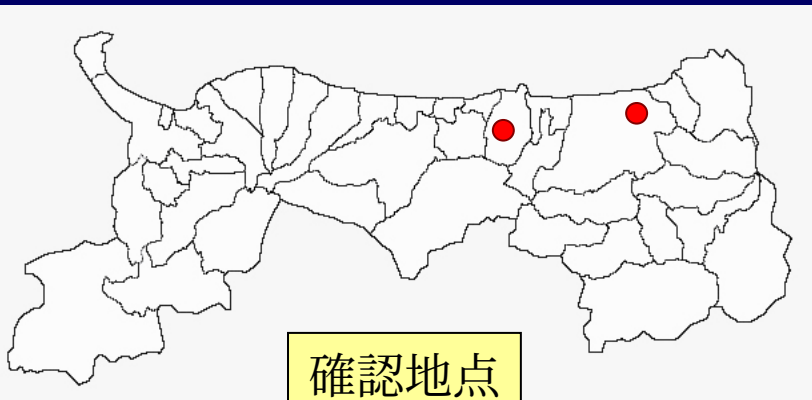
Pteronemobius nigrescens (Shiraki, 1911)



鳥取市覚寺産 ♀成虫

これまでの知見

- ツヤツヤした赤褐色の小型のチビスズ類.
県下での生息状況については不明.
関東平野での観察では、良好な常緑樹林に見られ、沢筋などを好む傾向がある.

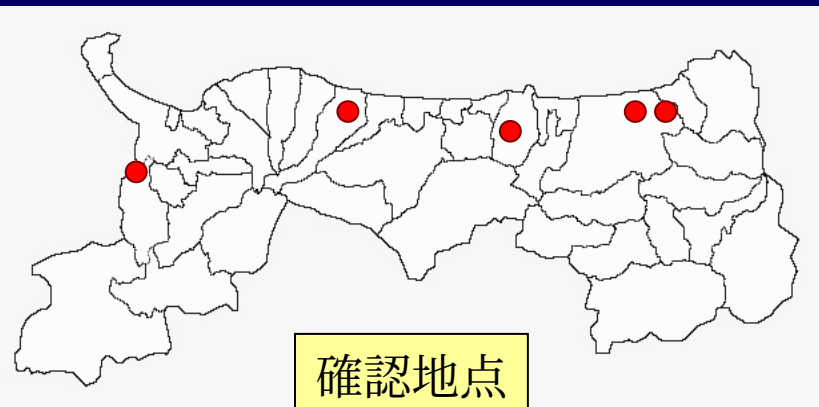


マダラスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius nigrofasciatus (Matsumura, 1904)



鳥取市東町産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

- 斑模様の脚を持つ黒白の小さなチビスズ類。
芝生などの丈の低い草
地を好み、県下にも普通
で個体数も多い。シバス
ズと混生するが、シバス
ズよりも低い声でジー
ジーと断続的に鳴く。
卵越冬し、初夏と秋の年
2回発生する。

ハマスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius csikii (Bolivar, 1901)



鳥取市浜坂産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 砂の色そっくりの小さなチビスズ類.

県下に豊富な自然砂浜に多数見られる. 卵越冬. 県下では初夏と秋以降の年2回成虫が発生するが1化目の発生数は少ない.

県内の本種は砂浜の砂質によりそれぞれ異なった体色を示す. ジーギーチッチッチと鳴く.

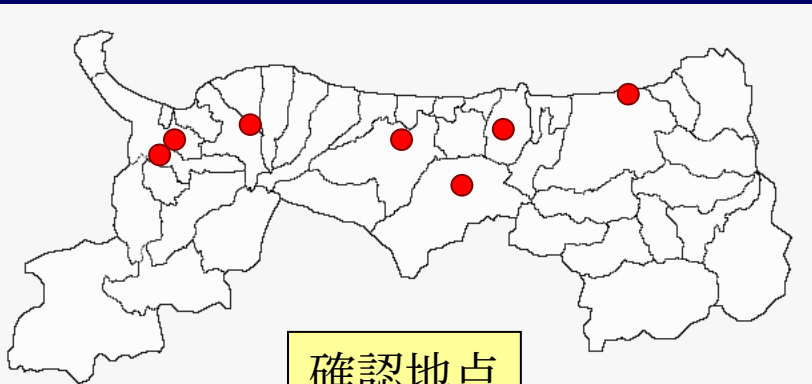
全国的に見ると減少傾向にあり, 各県のRDB種に指定されている.

シバスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius mikado (Shiraki, 1913)



鳥取市東町産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 芝生などに多い小さなチビスズ類. 明褐色のツヤツヤした翅を持ち, 芝生でもやや草丈が高いところに見られる.

県下には普通で個体数も多い.

ジーーーーッと連続的に可愛いらしい声で鳴くが, 結構悪い顔つきをしている.

ヒゲシロスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius flavoantennalis (Shiraki, 1913)

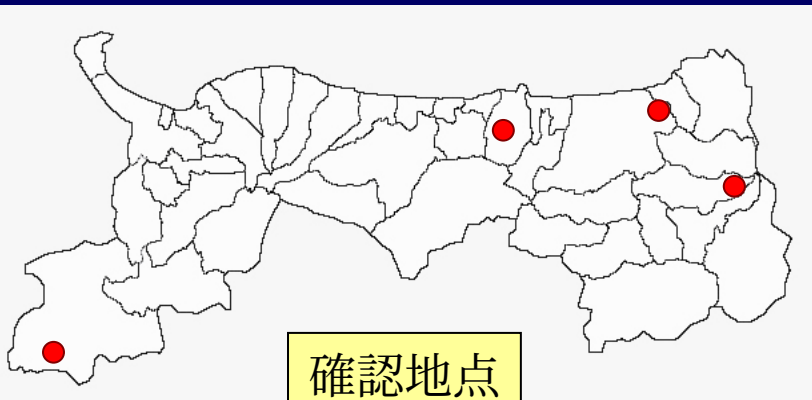


鳥取市東町産 ♂成虫

これまでの知見

■ 白い触角とツヤツヤした黒色が特徴的な小型のチビスズ類.

県下には普通で個体数も多い. 草丈がやや高い草地を好む. フィリリリリリリリ...と聞こえる可憐な声で地面で連続的に鳴く.



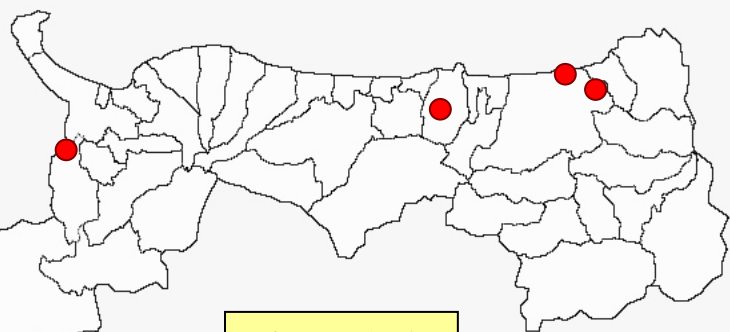
確認地点

カネタタキ (カネタタキ科)

Ornebius kanetataki (Matsumura, 1904)



鳥取市浜坂産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 小さくて翅の短い樹上性のコオロギ類.

小さな体からは想像もつかぬほどの大きな声で、チンッ、チンッ、チンッ..と小気味良く断続的に鳴く.

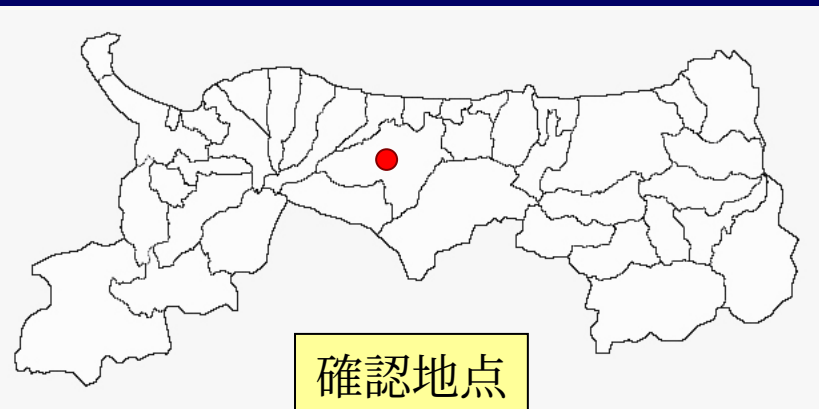
♀はより翅が小さく、丸裸的. 家の中にもよく入る.

テラニシアリツカコオロギ (アリツカコオロギ科)

Myrmecophilus teranishii Teranishi, 1914



倉吉市黒見産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

- アリの巣の中で暮らす好蟻性のコオロギ類.

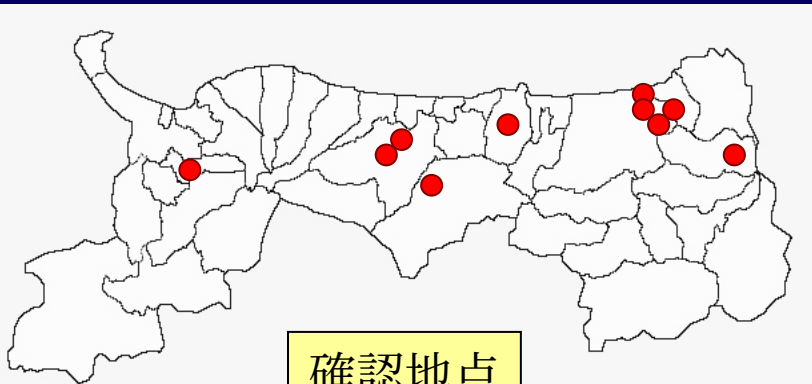
トビイロケアリの巣内から見つかっているが、県下での詳細な生息状況については不明.

ケラ (ケラ科)

Gryllotalpa orientalis Burmeister, 1839



倉吉市黒見産 成虫



確認地点

これまでの知見

■ 地中生活に特化した直翅類. 「おけら」の愛称でよく知られる. 県下には普通で個体数も多く, 灯火を華麗に舞う姿がよく見られる.

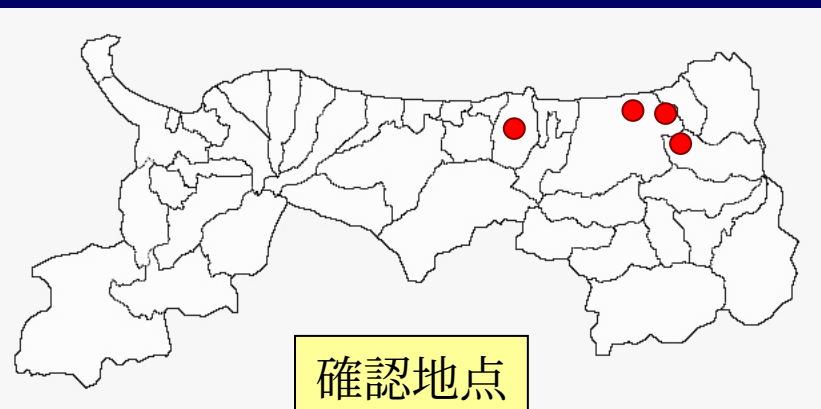
地中に掘った巣内でグルーーーーーーという連続した声で鳴き, 昔から「ミミズ」の声と間違われた. 雌雄ともに鳴くとされるが, ♀の発音を確認した例はない. 年2回繁殖する.

ノミバツタ (ノミバツタ科)

Xya japonica (de Haan, 1842)



鳥取市東町産 成虫 (左)
背面 (上)



これまでの知見

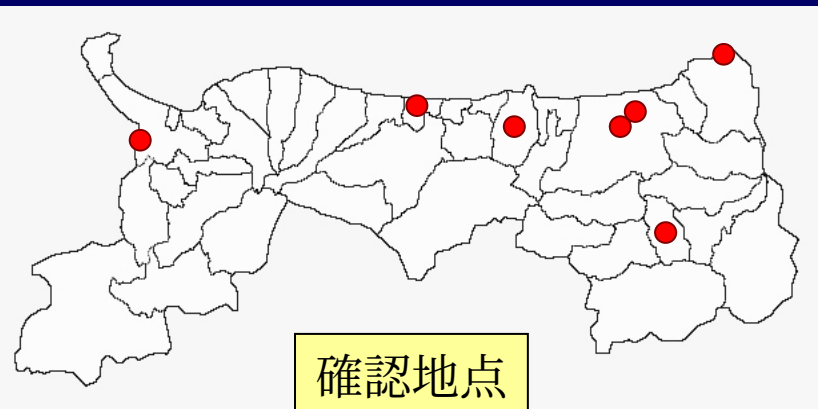
- 黒くてツヤツヤした体の特徴的なごく小さなバツタ類。
日当たりのよい乾いた裸地に見られる。
県下には普通で個体数も多い。成虫越冬する。

トゲヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Criotettix japonicus (de Haan, 1842)



倉吉市黒見産 成虫



確認地点

これまでの知見

■ 体側面の鋭いトゲと長い翅が特徴的な大型のヒシバツタ類.

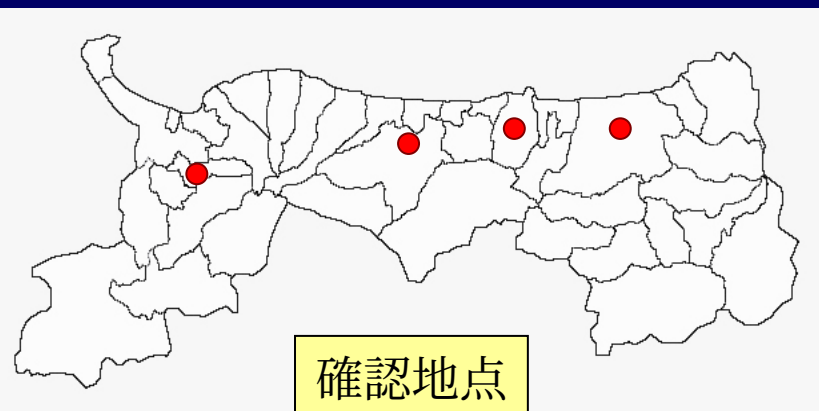
湿地や田圃などの湿った環境を好み, よく飛ぶ.

近年, 「擬死行動」や「擬態」などの研究の材料として脚光を浴びている.

県下にはかなり普遍的に見られ個体数も多いが, 県RDB種の危急種(VT)に指定されており, 今後の検討が必要である.

ハネナガヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Euparatettix insularis Bey-Bienko, 1951



これまでの知見

- 長い翅が特徴の小型のヒシバツタ類.

河川敷などの湿った環境を好み, よく飛ぶ.

県下には普通で個体数も多い.

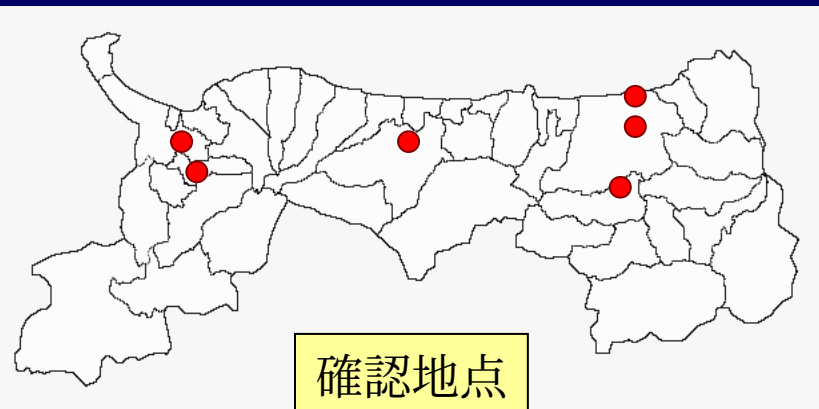
ニセハネナガヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Ergatettix dorsifer (Walker, 1871)



これまでの知見

- 飛び出た眼と長い翅が特徴の小型のヒシバツタ類。
河川敷などの湿った環境を好み、よく飛ぶ。
県下には普通で個体数も多い。

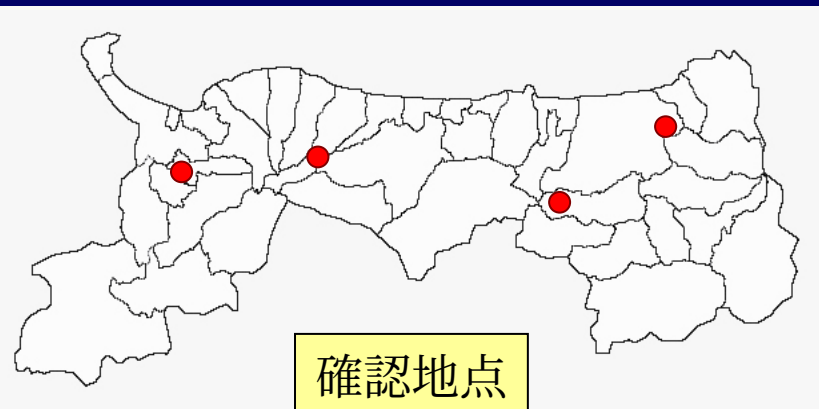


コバネヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Formosatettix larvatus Bey-Bienko, 1951



鳥取市東町産 成虫(左)
側面(上)



確認地点

これまでの知見

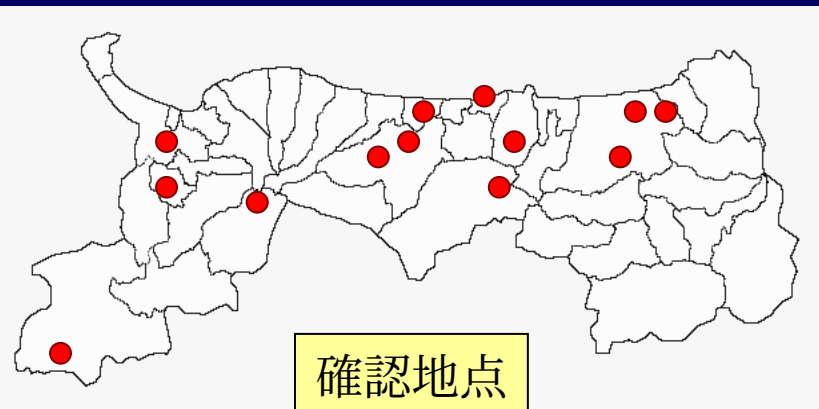
- 体の太い大型のヒシバツタ類.
県下には普通で個体数も多い. 林床で見られる.

オンブバッタ (オンブバッタ科)

Atractomorpha lata (Motschulsky, 1866)



鳥取市浜坂産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

- 丈の低い草地に見られる小型のバッタ類.

県下には普通で個体数も多い.

晩秋, 最も遅い時期まで見られるバッタの1つ. 近年, その理由として卵が休眠を持たないために, 代謝が低くなるほど外気温が下がるまで成虫が生き延びるためであることが明らかとなった. この特性は, 本種の交尾行動にも強く影響をおよぼしており, 産卵直前まで♂が♀をガードする必要があるため, ♀の背面にしばしば♂が乗っている姿が見受けられることからその名が付けられた (post guarding).

ダイリフキバツタ (バッタ科)

Callopodisma dairisama (Schudder, 1897)



江府町鏡ヶ成産 成虫

これまでの知見

- 極度に短い翅を持つフキバツタ類.
これまでのところ県下では大山周辺のみから知られる.



確認地点

セトウチフキバッタ(ヤマトフキバッタ) (バッタ科)

Parapodisma setouchiensis Inoue, 1979

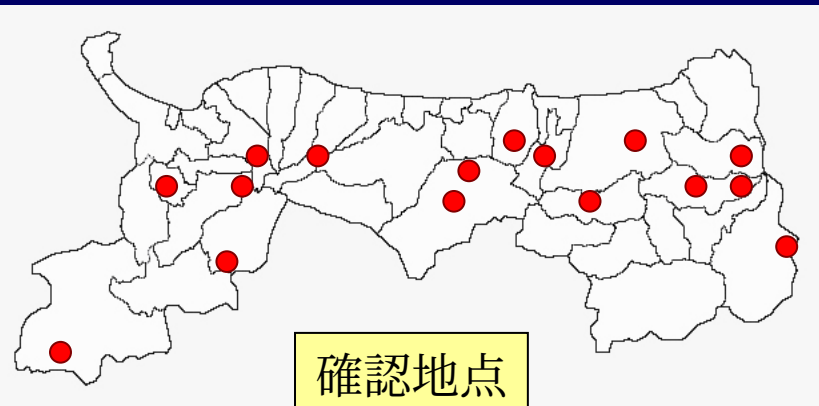


倉吉市黒見産 ♀成虫

これまでの知見

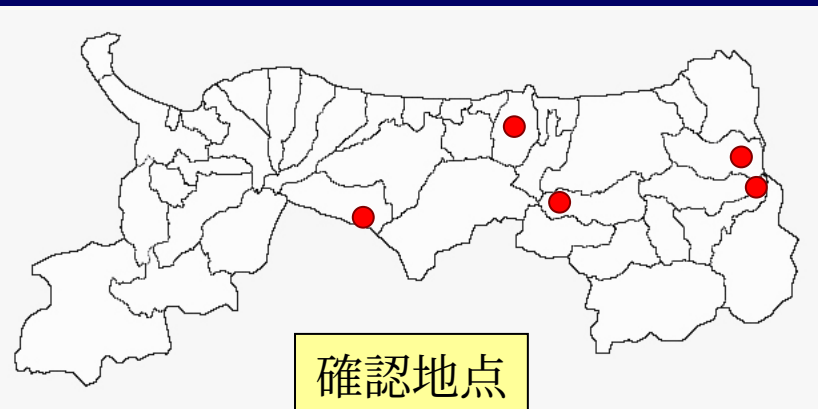
■ 短翅のフキバッタ類. 体の背面に見える眼の上を通る2本の黒い筋が特徴的.

県下には普通で個体数も多い. 特に林道脇などに多い.



ハネナガフキバッタ (バッタ科)

Ognevia longipennis (Shiraki, 1910)



これまでの知見

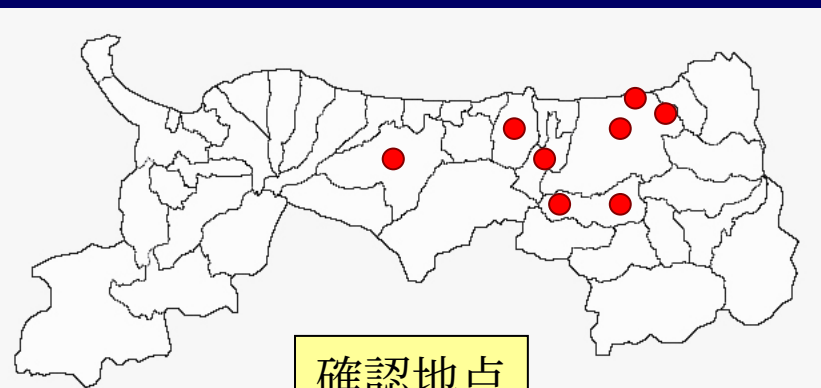
- 長翅のフキバッタ類.
林道脇などに見られる.
県下での分布の詳細については不明. 生息地での個体数が多い.

ツチイナゴ (バッタ科)

Patanga japonica (Bolivar, 1898)



河原町三滝溪産 成虫



確認地点

これまでの知見

■ 目の下から口元に続く黒い筋が特徴的な大型のイナゴ類.

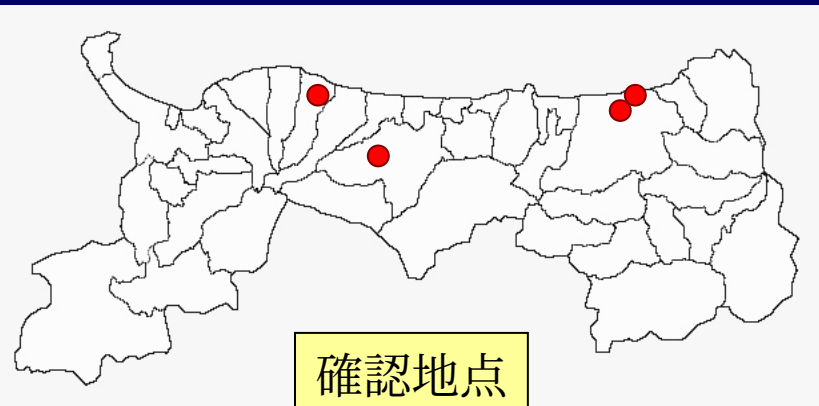
県下には普通で個体数も多い. 成虫越冬し, クズの密生したような場所でよく見られる.

ハネナガイナゴ (バッタ科)

Oxya japonica japonica (Thunberg, 1824)



倉吉市黒見産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

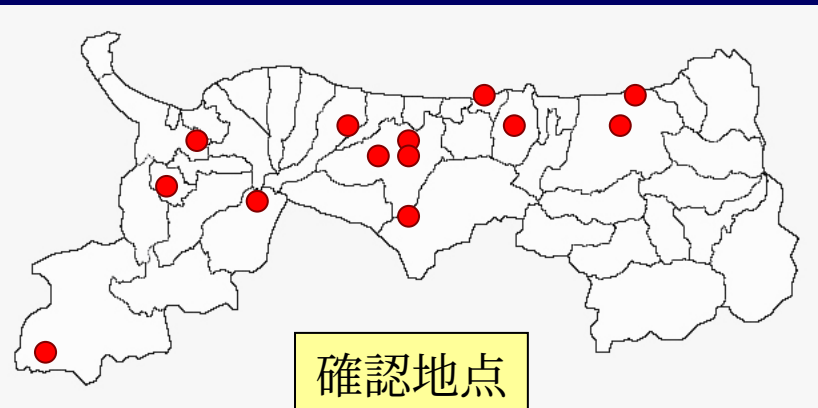
- 翅の長いイナゴ類.
県下での分布の詳細については不明.
前種同様、「イナゴの佃煮」の材料として珍重される.

コバネイナゴ (バッタ科)

Oxyya yezoensis Shiraki, 1910



江府町鏡ヶ成産 ♀成虫



確認地点

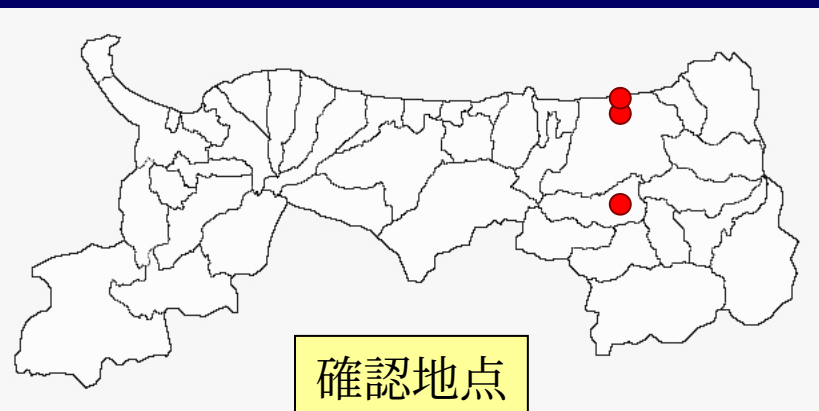
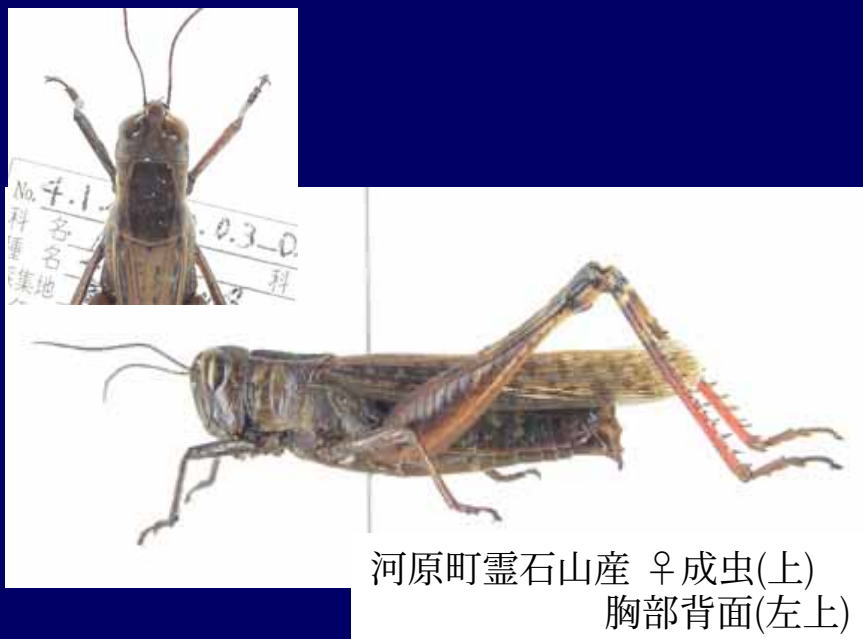
これまでの知見

■ 「イナゴの佃煮」なイナゴ類. 上翅が短く, 腹端と同程度. イネの害虫としても有名.

県下には普通で個体数も多い. 成夏から晩秋まで, 交尾中の姿がよく見られる. 美味.

セグロイナゴ (バッタ科)

Shirakiacris shirakii (Bolivar, 1914)



これまでの知見

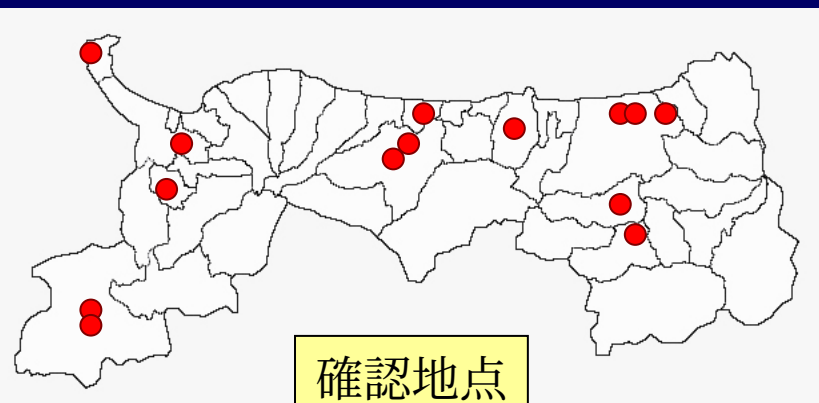
- 胸部背面の黒丸模様が特徴的な中型のバッタ類。
攪乱草原や河口の湿地などに住むが、県下では近年の記録がほとんどない。
- 県RDB種の情報不足(DD)に指定されているが、絶滅が心配される。
- 新産地の発見や調査が必要。情報を求む！

ショウリョウバッタ (バッタ科)

Acrida cinerea (Thunberg, 1815)



鳥取市東町産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ 細長い体の国内最大の巨大なバッタ類.

県下には草丈の低い草地に普通で個体数も多い.

♂は飛翔時に翅の根本よりキチキチキチキチというクリック音を発するため、「キチキチバッタ」という名称がある.

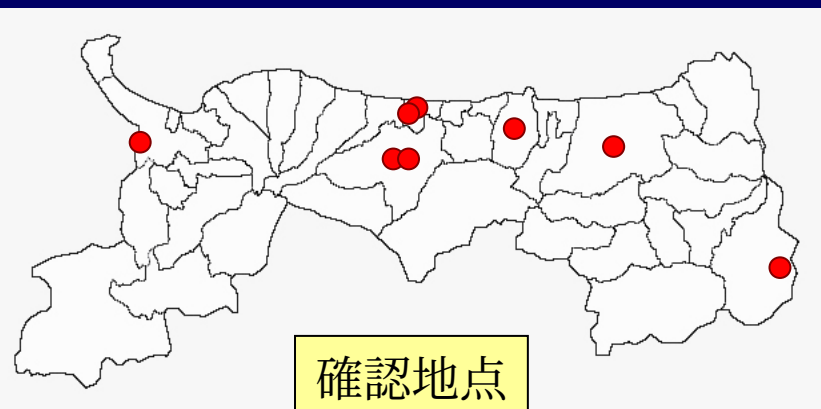
和名の意は、「精霊バッタ」. 成虫がお盆ごろに多く出現することに由来する.

ショウリョウバッタモドキ (バッタ科)

Gonista bicolor (de Haan, 1842)



大栄町由良宿産 ♂成虫



これまでの知見

■ ショウリョウバッタを華奢にして、頭でっかちにしたような感じの中型のバッタ類.

適度な草丈が維持された攪乱草原を好み、カヤコオロギとセットで見られる.

県下での分布は局所的で、県RDB種の情報不足(DD)に指定されている. 生息地での密度は高い.

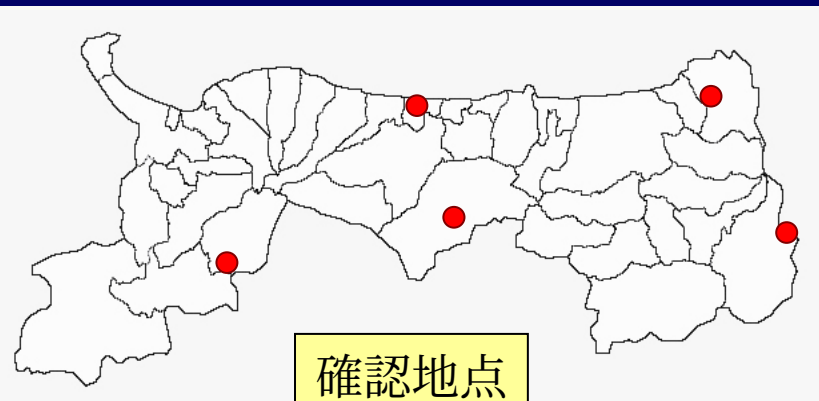
イネ科草本を好み、人が近づくと裏側にくるっと回りこむ.

ナキイナゴ (バッタ科)

Gonista bicolor (de Haan, 1842)



大栄町由良宿産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

- 乾いた草原に多い細顔の小型のイナゴ類。
県下には普通で個体数も多い。道路脇や林縁などに見られる。脚をこすり合わせてジキジキジキと鳴く。

ヒロバネヒナバッタ (バッタ科)

Stenobothrus fumatus Shiraki, 1910



江府町鏡ヶ成産 ♀成虫(左)
胸部背面(右上)

これまでの知見

■ 背中のバテン模様が特徴的な小型のバッタ類.

県下には普通で個体数も多い. 乾いた草地などでよく見られる. ♂は後脚と上翅をこすりジキジキジキとよく鳴く.



確認地点

ヒナバッタ (バッタ科)

Glyptobothrus maritimus maritimus (Mistshenko, 1951)



江府町鏡ヶ成産 ♀成虫(左)
胸部背面(右上)

これまでの知見

- 乾いた草原に多い小型のバッタ類.

県下には普通で個体数も多い. 後脚を上翅にこすりジキジキジキと鳴く.

ヒナバッタの仲間は, 胸部背面にクロス模様がある.

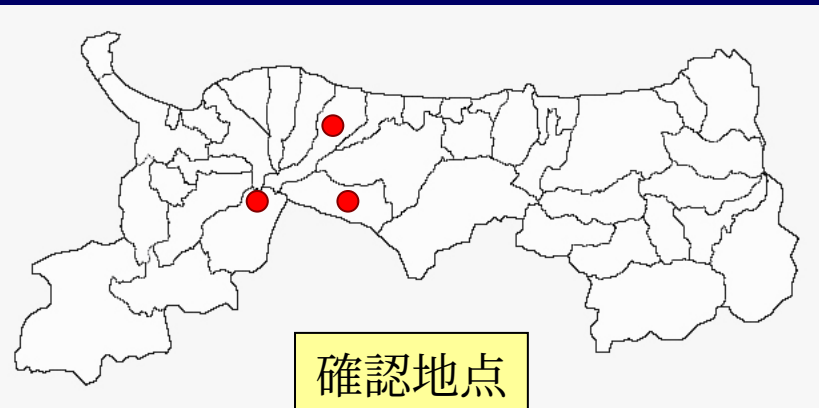


イナゴモドキ (バッタ科)

Mecostethus parapleurus (Hagenbach, 1822)



江府町鏡ヶ成産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

- 乾燥した草地に住む小型のバッタ類.
県下での分布については不明.

ツマグロイナゴ(バッタ科)

Mecostethus magister (Rehn, 1902)

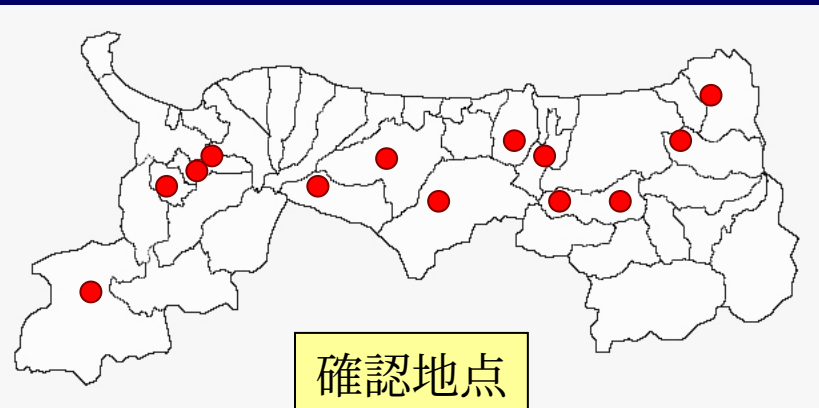


鳥取市源太産♀成虫

これまでの知見

- 後脚のひざ小僧部の黒色班が特徴的な大型のイナゴ類.

湿地や沢筋などを好み、盛夏に出現する.



マダラバッタ (バッタ科)

Aiolopus thalassinus tamulus (Fabricius, 1798)



これまでの知見

■ 色とりどりの斑模様が鮮やかな中型のバッタ類.

草丈の低い草地や荒地に住む. 県下には普通で個体数も多い.

ヤマトマダラバッタ (バッタ科)

Aiolopus japonicus (Shiraki, 1910)



鳥取市浜坂産 ♀成虫



確認地点

これまでの知見

■ きれいな砂地に住む淡い体色の中型のバッタ類.

成虫は成夏に出現する.

県下に比較的良好に残されている自然砂浜には、普遍的かつ数多く見られる.

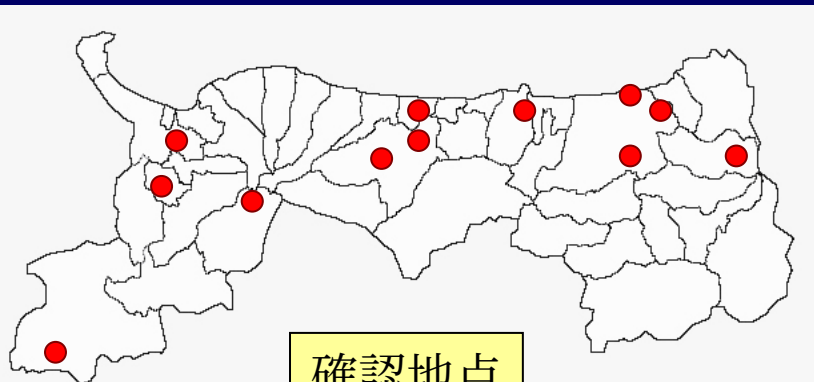
鳥取県RDB種の準絶滅危惧種、岡山県の絶滅危惧種、兵庫県のアランク種に指定されている.

トノサマバッタ (バッタ科)

Locusta migratoria (Linnaeus, 1758)



江府町鏡ヶ成産 ♂成虫



確認地点

これまでの知見

■ 大きな顔と背中の中のしわが特徴的な大型バッタ類.

県下には普通で個体数も多い. イネ科草原を好む. 飛翔能力が高く, よく飛ぶ. 幼虫密度の違いなどにより孤独相と群集相という2つの相(phase)を持ち, 海外では大発生することでお有名.

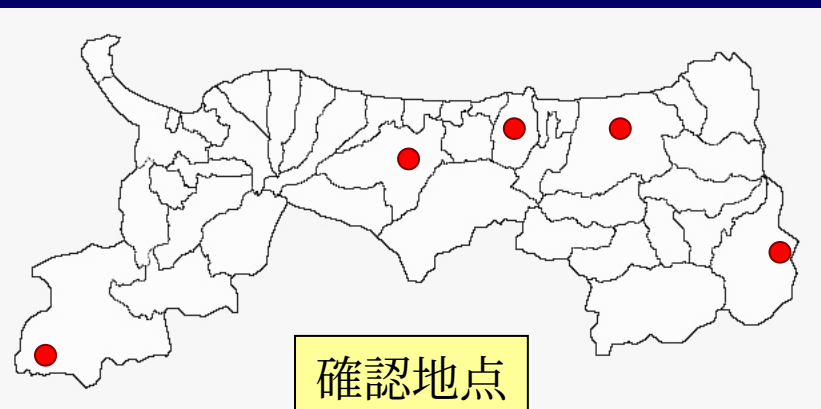
古くより「飛蝗」として恐れられてきた.

クルマバッタ (バッタ科)

Gastrimargus marmoratus (Thunberg, 1815)



若桜町春米産 幼虫



確認地点

これまでの知見

■ 丸い背中が特徴的な大型のバッタ類.

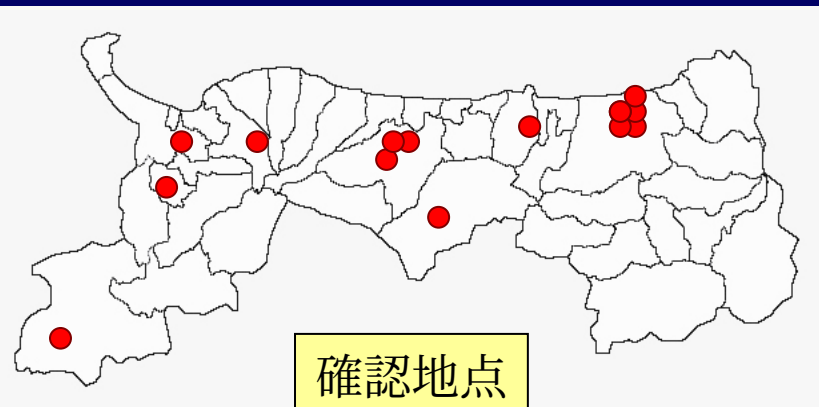
県下には普通だが、標本は少ない. 後翅に丸い輪のような模様があるため、この名が付けられた(クルマバッタモドキなどにもあるため注意).

クルマバッタモドキ (バッタ科)

Oedaleus infernalis (Saussure, 1884)



鳥取市浜坂産 ♂成虫(上)
胸部背面(左)



確認地点

これまでの知見

■ 乾燥した草地や裸地を好む大型のバッタ類.

胸部背面のヒシ型模様が特徴. 飛翔時には, 後翅の輪形の模様が目立つ.

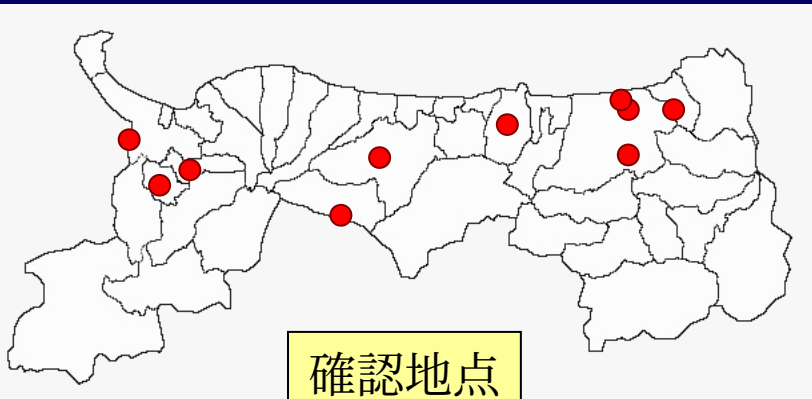
県下では荒地から砂丘まで各所に見られ, 個体数も多い.

イボバッタ (バッタ科)

Mecostethus parapleurus (Hagenbach, 1822)



鳥取市久松山産 成虫



これまでの知見

- 日当たりの良い裸地や荒地の乾燥地に見られるボコボコした風采のバッタ類。
県下には普通で個体数も多い。目が飛び出ており、近づくとすぐ飛ぶ。

Wanted!

県内産標本!

以下の種類は, 県下に
標本が残されていません.
有志からの寄贈や
鋭意採集を期待します!

コバネコロギス (コロギス科)

Neanias magnus (Matsumura et Shiraki, 1908)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 鳥取市桂見からの記録がある (1ex, 1-VIII-1998, 田村, 1998).



確認地点

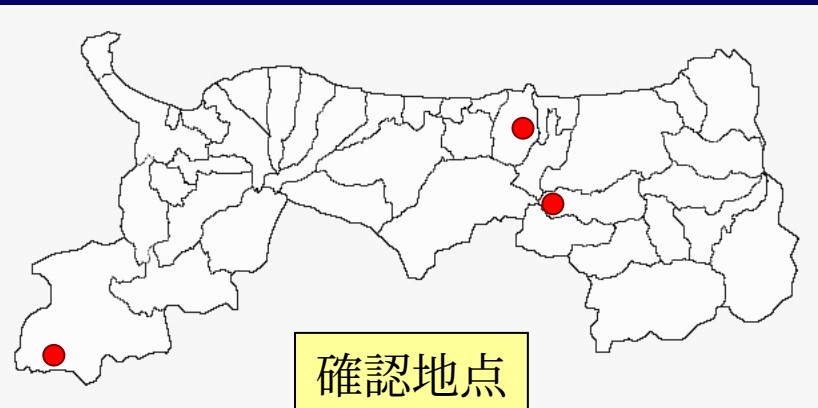
マダラカマドウマ (カマドウマ科)

Dietrammena japonica Blatchley, 1920

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 県内各所からの記録あり。
大阪市立自然史博物館
に県内産の標本が保管されている。



イブキヒメギス (キリギリス科)

Eobiana japonica (Bolivar, 1890)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 河原町三滝溪からの記録あり (1♂1♀, 18-IX-2001, 鶴崎ら, 2003).



確認地点

ヒョウノセンヒメギス (キリギリス科)

Eobiana s

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 県下では, 氷ノ山, 扇ノ山, 大山に生息するとされる.
日本直翅類学会編(2006)に江府町産の標本写真が掲載されている.



確認地点

コバネヒメギス (キリギリス科)

Chizuella bonneti (Bolivar, 1890)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日本直翅類学会編(2006)の各県産直翅類リストに分布地としてピックアップされている.



確認地点

ハタケノウマオイ (カマドウマ科)

Hexacentrus japonicus Karny, 1907

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 鳥取市湖山で鳴き声が確認されている.

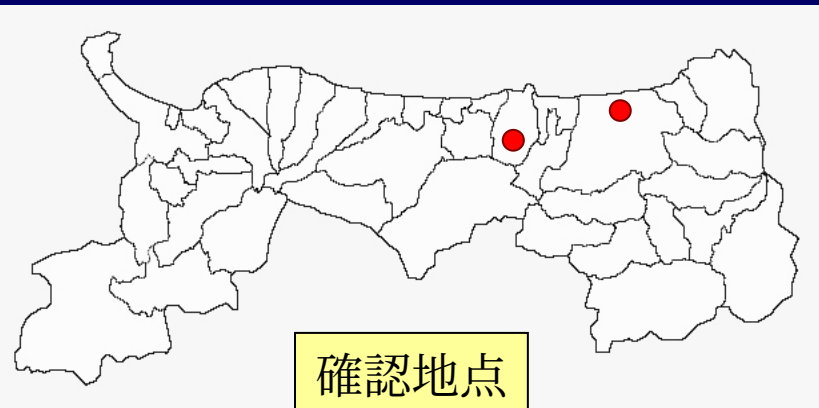


確認地点

コバネササキリ (キリギリス科)

Conocephalus japonicus (Redtenbacher, 1891)

Wanted!
県内産標本!



確認地点

これまでの知見

■ 青谷町露谷からの記録がある(宮武, 1996).

大阪市立自然史博物館に県内産の標本が保管されている.

2007年6月下旬に鳥取市湖山池青島周辺で声が確認されている.

コバネササキリモドキ (キリギリス科)

Cosmetura fenestrata Yamasaki, 1983

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日本直翅類学会編(2006)に県内産の標本写真が掲載されている.



確認地点

スオウササキリモドキ (キリギリス科)

Asymmetricercus suohensis Mitoki, 1999

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日本直翅類学会編(2006)に県内産の標本写真が掲載されている.



ハダカササキリモドキ (キリギリス科)

Tettigoniopsis kiurai Kano et Kawakita, 1985

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日本直翅類学会編(2006)に県内産の標本写真が掲載されている.



ヒメコオロギ (コオロギ科)

Modicogryllus nipponensis (Shiraki, 1913)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 国府町木原で鳴き声が確認されている.



確認地点

ナツノツヅレサセコオロギ (コオロギ科)

Velarifictorus grylloides (Chopard, 1969)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 鳥取市江崎町で鳴き声が確認されている.



確認地点

ヤマトヒバリ (ヒバリモドキ科)

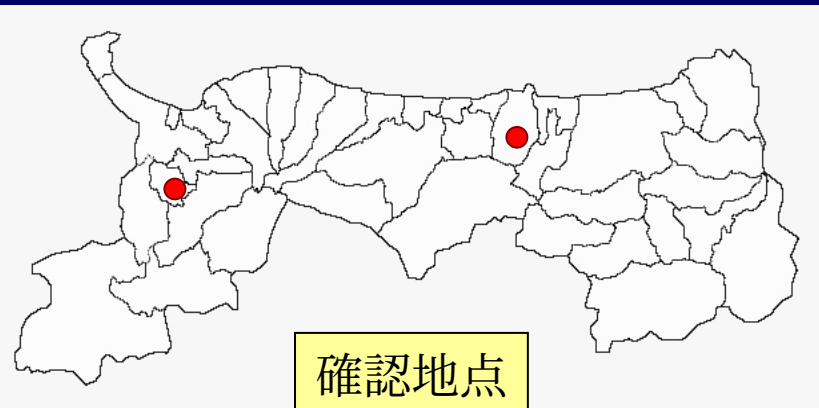
Homoeoxipha obliterata (Caudell, 1927)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 県内各所からの記録がある (宮武, 1996; 淀江ら, 2000).

大坂市立自然史博物館
に県内産の標本が保管されている.



キタヤチスズ (ヒバリモドキ科)

Pteronemobius gorochovi Storozhenko, 2004

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日南町新屋からの記録がある (3♂4♀, 25-IX-2003, 亀山・中村, 2006).



確認地点

マツムシモドキ (マツムシ科)

Aphonoides japonicus (Shiraki, 1930)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 鳥取市東町久松公園の
灯火に飛来している姿が確
認されている.



確認地点

ハラヒシバツタ (ヒシバツタ科)

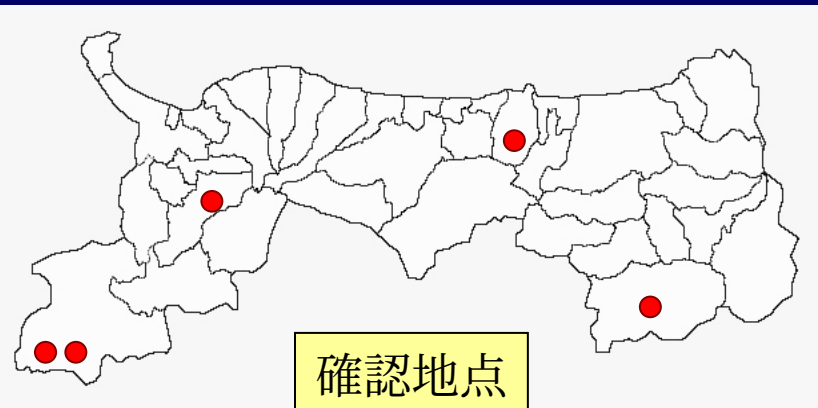
Tetrix japonica (Bolivar, 1887)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 県内各所からの記録がある (市川, 1995; 亀山・中村, 2006; 宮武, 1996).

大坂市立自然史博物館
に県内産の標本が保管されている.



ヤセヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Tetrix macilenta Ichikawa, 1993

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 県内各所からの記録がある (市川, 1995).



確認地点

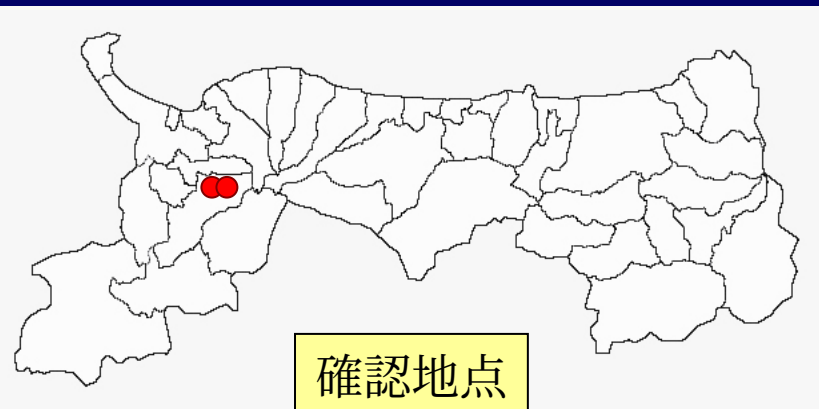
ノセヒシバツタ (ヒシバツタ科)

Aulatetrix fornicatus (Ichikawa, 1993)

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 大山周辺からの記録がある (市川, 1995).



ヒメオンブバッタ (バッタ科)

Atractomorpha nipponica Steinmann, 1967

Wanted!
県内産標本!

これまでの知見

- 日本直翅類学会編(2006)の各県産直翅類リストに分布地としてピックアップされている.



確認地点

カワラバッタ (バッタ科)

Eusphingonotus japonicus (Saussure, 1988)

Wanted!
県内産標本!



これまでの知見

■ 溝口町大山山麓からの古い記録があり (1♂, 15-VII-1948, 宮武, 1996), 標本が大阪市立自然史博物館に保管されている。

本種はここ50年ほどの間、県内からまったく記録がなく、鳥取県RDB種の絶滅種(EX)に指定されている。

今後、県下での精査が必要であり、再発見が望まれる。